

Date:

日 本 国 特 許 庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日

Date of Application:

1999年10月18日

出 願 番 号

Application Number:

平成11年特許願第295225号

出 願 人

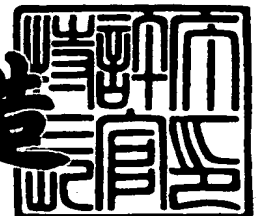
Applicant (s):

日本圧着端子製造株式会社

2000年 9月18日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2000-3074247

【書類名】 特許願

【整理番号】 91018074

【提出日】 平成11年10月18日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 H01R 13/73

【発明の名称】 コネクタ及びコネクタに装着された電子モジュールの冷却方法

【請求項の数】 18

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県横浜市港北区菊名 7 - 9 - 1 - 2 0 2

【氏名】 安福 かおり

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県横浜市港北区綱島西 2 - 5 - 8 - 8 0 2

【氏名】 保坂 泰司

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県川崎市高津区千年新町 1 2 - 3 - 2 0 2

【氏名】 宮沢 雅昭

【特許出願人】

【識別番号】 390033318

【氏名又は名称】 日本圧着端子製造株式会社

【代理人】

【識別番号】 100089196

【弁理士】

【氏名又は名称】 梶 良之

【選任した代理人】

【識別番号】 100104226

【弁理士】

【氏名又は名称】 須原 誠

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 014731

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9908372

【包括委任状番号】 9908371

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 コネクタ及びコネクタに装着された電子モジュールの冷却方法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 電子モジュールが装着されるコネクタであって、前記電子モジュールを保持するハウジング手段と、このハウジング手段に対して設けられ、前記電子モジュールに沿って空気が通り抜けることを許容する通気手段とを備えてなるコネクタ。

【請求項 2】 電子モジュールが装着されるコネクタであって、前記電子モジュールの先端に設けられた導電パッドに接続されるコンタクトが取り付けられた本体部と、この本体部の両側から突設され、前記電子モジュールの両端側を保持する一对の腕部とを有するハウジング手段と、前記本体部に設けられた第 1 通気手段、又は前記一对の腕部の各々に設けられた一对の第 2 通気手段の少なくとも一方とを備えてなるコネクタ。

【請求項 3】 前記一对の腕部の端に、前記電子モジュールの反装着側の端を載置し、空気を取り込む開口を有する整流手段が取り付けられた請求項 2 記載のコネクタ。

【請求項 4】 前記一对の腕部の端に、前記電子モジュールの反装着側の端を載置する支持手段が取り付けられた請求項 2 記載のコネクタ。

【請求項 5】 前記第 2 通気手段の開口が外部に向かって広がる形状を有する請求項 2 記載のコネクタ。

【請求項 6】 平板状の電子モジュールが装着されるコネクタであって、前記電子モジュールの先端に設けられた導電パッドに接続されるコンタクトが取り付けられた本体部と、この本体部の両側から突設され、前記電子モジュールの両端側を保持する一对の腕部とを有するハウジング手段と、前記本体部に設けられた通気手段と、前記一对の腕部の各々に設けられた壁手段とを備えてなるコネクタ。

【請求項 7】 前記一对の腕部の前後に、二つ以上のコネクタの腕部同士を連結させる壁部材の取付け部が形成されている請求項 6 記載のコネクタ。

【請求項 8】 前記一对の腕部の前後に、二つ以上のコネクタの腕部同士を

連結させる係合部が形成されている請求項 6 記載のコネクタ。

【請求項 9】 前記電子モジュールが挿入された前記コネクタの二つ以上を連結させたときに生じる上面の空間に対して上板が取り付けられた請求項 7 又は 8 記載のコネクタ。

【請求項 10】 前記一对の腕部の端に、前記電子モジュールの反装着側の端を載置し、空気を取り込む開口を有する整流手段が取り付けられた請求項 6 記載のコネクタ。

【請求項 11】 前記コンタクトは、前記本体部の前後から前記通気手段を横切って下方に延びる前側コンタクトと後側コンタクトとから成り、前記前側コンタクトと前記後側コンタクトの各々は空気の流れ方向に向かって流線型の断面を有する請求項 2 又は 6 記載のコネクタ。

【請求項 12】 前記コンタクトは、前記本体部の前後から前記通気手段を横切って下方に延びる前側コンタクトと後側コンタクトとから成り、前記前側コンタクトと前記後側コンタクトの間を閉鎖するクロージャ手段を設けた請求項 2 又は 6 記載のコネクタ。

【請求項 13】 前記コンタクトは、前記本体部の前後から前記通気手段を横切って下方に延びる前側コンタクトと後側コンタクトとから成り、前記前側コンタクトと前記後側コンタクトの各々に対して防塵手段を設けた請求項 2 又は 6 記載のコネクタ。

【請求項 14】 前記防塵手段は、前記前側コンタクトと前記後側コンタクトの各々に対して隣り合うコンタクトの間を仕切る仕切り手段である請求項 1 3 記載のコネクタ。

【請求項 15】 平板状の電子モジュールが装着されるコネクタであって、前記電子モジュールの先端に設けられた導電パッドに接続されるコンタクトが取り付けられた本体部と、この本体部の両側から突設され、前記電子モジュールの両端側を保持する一对の腕部とを有するハウジング手段と、前記一对の腕部の各々に設けられた一对の通気手段と、前記本体部に設けられた壁手段とを備えてなるコネクタ。

【請求項 16】 前記通気手段の開口が外部に向かって広がる形状を有する

請求項 1 5 記載のコネクタ。

【請求項 1 7】 前記一对の腕部の端同士を連結する壁部材を設けた請求項 1 5 記載のコネクタ。

【請求項 1 8】 電子モジュールを保持するハウジング手段に通気手段を設け、前記通気手段に対して吸気手段又は送風手段の少なくとも一つを設置し、前記コネクタに装着された電子モジュールに前記コネクタを通り抜ける空気流を形成するコネクタに装着された電子モジュールの冷却方法。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は、平板状のメモリモジュールなどの電子モジュールを装着し、マザーボードの表面に実装するとき用いられるコネクタに関し、特に装着された前記電子モジュールを冷却するのに適した構造を有するコネクタに関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

平板状の電子モジュールは、カード状の基板と、この基板の上面と下面の両方に取り付けられたメモリチップなどの電子チップと、基板の先端側に形成され、前記電子チップに接続される導電パッドとを備えて構成される。この平板状の電子モジュールはコネクタに装着され、このコネクタがマザーボード上の所定位置に実装される。

【 0 0 0 3 】

前記コネクタは、電子モジュールの前記導電パッドに接続されるコンタクトが取り付けられた本体部と、この本体部の両側から突設され、前記電子モジュールの両側端を保持する一对の腕部とを有するハウジングを備えて構成される。

【 0 0 0 4 】

前記コネクタに前記電子モジュールを装着すると、電子モジュールの先端が前記本体部で保持され、電子モジュールの両側端が前記一对の腕部で保持される。このコネクタをマザーボードの上に実装すると、電子モジュールの上面に取り付けられた電子チップは上方に開放されているが、電子モジュールの下面に取り付

けられた電子チップはマザーボードと僅かな隙間を隔てて対面する。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

近年、高性能のノート型パソコンが開発され、高性能の電子チップを搭載した電子モジュールが前記コネクタを介してノート型パソコン内のマザーボードに取り付けられるようになってきている。高性能の電子チップは発熱し易いため、ノート型パソコンのケース内に空気流を形成して電子チップなどを冷却する構造が採用されている。しかし、コネクタに装着された電子モジュールは、その先端と両側端の3方が本体部と一對の腕部を有するハウジングによって囲まれている。そのため、特に電子モジュールの下面とマザーボードとの間の空気の流れが滞り、電子モジュールの下面の冷却が不十分になるという問題点があった。

【0006】

そこで、本発明の第1の目的は、コネクタに装着された電子モジュールの冷却を通り抜け可能な空気流によって効率的に行うことができる構造を有する新規なコネクタを提供することである。

また、本発明の第2の目的は、コネクタに装着された電子モジュールの冷却をハウジング手段の適所の通気手段により効率的に行うことができる構造を有する新規なコネクタを提供することである。

また、本発明の第3の目的は、コネクタに装着された平板状の電子モジュールに対して、特に前記平板状の短手方向に沿った空気流を形成できる構造を有する新規なコネクタを提供することである。

また、本発明の第4の目的は、コネクタに装着された平板状の電子モジュールに対して、特に前記平板状の長手方向に沿った空気流を形成できる構造を有する新規なコネクタを提供することである。

また、本発明の第5の目的は、コネクタに装着された電子モジュールに対する冷却を効率的に行うことができる冷却方法を提供することである。

【0007】

【課題を解決するための手段】

前記目的を達成する第1の発明（請求項1）は、電子モジュールが装着される

コネクタであって、前記電子モジュールを保持するハウジング手段と、このハウジング手段に対して設けられ、前記電子モジュールに沿って空気が通り抜けることを許容する通気手段とを備えてなるコネクタである。

電子モジュールを装着した前記コネクタをマザーボードに実装すると、前記ハウジング手段に対して設けられた通気手段を経て、電子モジュールに沿って空気が通り抜ける。

【 0 0 0 8 】

前記目的を達成する第 2 の発明（請求項 2）は、電子モジュールが装着されるコネクタであって、前記電子モジュールの先端に設けられた導電パッドに接続されるコンタクトが取り付けられた本体部と、この本体部の両側から突設され、前記電子モジュールの両端側を保持する一对の腕部とを有するハウジング手段と、前記本体部に設けられた第 1 通気手段、又は前記一对の腕部の各々に設けられた一对の第 2 通気手段の少なくとも一方とを備えてなるコネクタである。

電子モジュールを装着した前記コネクタをマザーボードに実装すると、第 1 通気手段又は前記第 2 通気手段の少なくとも一方に向かって、電子モジュールの下面を空気が通り抜ける。

【 0 0 0 9 】

この空気の流れを良くするために、前記一对の腕部の端に、前記電子モジュールの反装着側の端を載置し、空気を取り込む開口を有する整流手段を取り付けることが好ましい。また、前記一对の腕部の端に、前記電子モジュールの反装着側の端を載置する支持手段を取り付けることが好ましい。また前記第 2 通気手段の開口を外部に向かって広がる形状にすることが好ましい。

【 0 0 1 0 】

前記目的を達成する第 3 の発明（請求項 6）は、平板状の電子モジュールが装着されるコネクタであって、前記電子モジュールの先端に設けられた導電パッドに接続されるコンタクトが取り付けられた本体部と、この本体部の両側から突設され、前記電子モジュールの両端側を保持する一对の腕部とを有するハウジング手段と、前記本体部に設けられた通気手段と、前記一对の腕部の各々に設けられた壁手段とを備えてなるコネクタである。

電子モジュールを装着したコネクタをマザーボードに実装すると、前記一对の腕部の各々に設けられた壁手段により両方の側面が囲われ、前記本体部に設けられた前記通気手段に向かって空気が流れる。これにより、平板状の電子モジュールの短手方向に空気が通り抜け、長手方向に複数列設された電子チップの各々の冷却が行われる。

【 0 0 1 1 】

複数のコネクタに共通に空気を流す場合、前記一对の腕部の前後の取り付け部に壁部材を取り付けることが好ましい。また、前記一对の腕部の前後の係合部により腕部同士を連結することが好ましい。また、コネクタの二つ以上を連結させたときに生じる上面の空間に対して上板を取り付けることが好ましい。前記一对の腕部の端に、前記電子モジュールの反挿入側を載置し、空気を取り込む開口を有する整流手段が取り付けられたものが好ましい。

前記本体部の下方に設けられた通気手段に向かって空気が流れる場合、下方に延びるコンタクトの間を空気が流れやすいように、コンタクトの断面を流線型にしたり、前コンタクトと後コンタクトの間を閉鎖するクロージャ手段を設けることが好ましい。また、前記コンタクトに空気流と共に流れる埃が溜まらないように、前記コンタクトに対して遮蔽手段や防塵手段を設けることが好ましい。また、前記防塵手段は、前記前側コンタクトと前記後側コンタクトの各々に対して隣り合うコンタクトの間を仕切る仕切り手段であるものが好ましい。

【 0 0 1 2 】

前記目的を達成する第 4 の発明（請求項 1 5）は、平板状の電子モジュールが装着されるコネクタであって、前記電子モジュールの先端に設けられた導電パッドに接続されるコンタクトが取り付けられた本体部と、この本体部の両側から突設され、前記電子モジュールの両端側を保持する一对の腕部とを有するハウジング手段と、前記一对の腕部の各々に設けられた一对の通気手段と、前記本体部に設けられた壁手段とを備えてなるコネクタである。

電子モジュールを装着した前記コネクタをマザーボードに実装すると、前記本体部に設けられた壁手段により一方の側面が囲われ、前記一对の腕部に設けられた通気手段に向かって空気が流れる。これにより、平板状の電子モジュールの長

手方向に空気が通り抜け、長手方向に複数列設された電子チップに対して順番に冷却が行われる。

【 0 0 1 3 】

この空気の流れを良くするため、前記通気手段の開口を外部に向かって広がる形状にすることが好ましい。また、前記一对の腕部の端同士を連結する壁部材を設けることが好ましい。また、前記通気手段に吸気手段又は送風手段の少なくとも一つを接続可能にすることが好ましい。

【 0 0 1 4 】

前記目的を達成する第 5 の発明（請求項 1 8）は、電子モジュールを保持するハウジング手段に通気手段を設け、前記通気手段に対して吸気手段又は送風手段の少なくとも一つを設置し、前記コネクタに装着された電子モジュールに前記コネクタを通り抜ける空気流を形成するコネクタに装着された電子モジュールの冷却方法である。

通気手段を有するコネクタと、吸気手段又は送風手段の少なくとも一つを組み合わせるにより、コネクタに装着された電子モジュールが効果的に冷却される。

【 0 0 1 5 】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の好ましい実施の形態を図面に基づいて説明する。図 1 は、電子モジュールの下面に風を流すのに適した構造を有する、第 1 発明及び第 2 発明に対応する第 1 の実施形態のコネクタを示す斜視図であり、図 2 はコンタクトが取り付けられた本体部の断面図である。

【 0 0 1 6 】

図 1 に示すコネクタ 1 は、本体部 1 1 と、本体部 1 1 の両側に直角方向に延在するように一体に突設された一对の腕部 1 2、1 3 とを有するハウジング（ハウジング手段）1 0 と、一对の腕部 1 2、1 3 のそれぞれの前後に下方に延在するように一体に設けられた基部 1 4、1 5 及び基部 1 6、1 7 と、基部 1 4、1 6 の間であって、本体部 1 1 の下方に設けられた第 1 通気口（通気手段）2 1 と、基部 1 4、1 5 と基部 1 6、1 7 の間であって、一对の腕部 1 2、1 3 のそれぞ

れの下方に設けられた一対の第 2 通気口（通気手段）2 2，2 3 と、を備えて構成される。

【0 0 1 7】

このコネクタ 1 に装着される平板状の電子モジュール 2 は、ケース状の基板 9 1 と、基板 9 1 の上面に取り付けられたメモリチップ等の電子チップ 9 2 と、基板 9 1 の下面に取り付けられたメモリチップ等の電子チップ 9 3 と、基板 9 1 の先端の上下に取り付けられた導電パッド 9 4，9 5 と、基板 9 1 の両側のくぼみ 9 6 とを備えて構成される。通常、基板 9 1 の上面及び下面の長手方向に複数の電子チップ 9 2 が並んだ状態になって取り付けられている。

【0 0 1 8】

図 2 に示すように、本体部 1 1 は、厚み方向のほぼ中心に電子モジュール 2 の先端を受け入れるキャビティ 2 5 を有する。また、この本体部 1 1 は、一端が電子モジュール 2 の上側の導電パッド 9 4 に接続自在であり、他端が図示されないマザーボードに接続自在である前側コンタクト 2 6 を圧入により取り付けるとともに、一端が電子モジュール 2 の下側の導電パッド 9 5 に接続自在であり、他端が図示されないマザーボードに接続自在である後側コンタクト 2 7 を圧入により取り付ける構造を有する。

【0 0 1 9】

前側コンタクト 2 6 は、片持ち梁状のアーム形状に打ち抜かれたものであり、キャビティ 2 5 の内側に付勢された一端 2 6 1 と、本体部 1 1 への嵌め込み部 2 6 2 と、第 1 通気口 2 1 を横切って下方に延在する垂直部分 2 6 3 と、基部 1 4 の下端に沿う他端 2 6 4 とを有する。

後側コンタクト 2 7 は、片持ち梁状のアーム形状に打ち抜かれたものであり、キャビティ 2 5 の内側に付勢された一端 2 7 1 と、本体部 1 1 への嵌め込み部 2 7 2 と、第 1 通気口 2 1 を横切って下方に延在する垂直部分 2 7 3 と、基部 1 4 の下端に沿って折り曲げられた他端 2 7 4 とを有する。

【0 0 2 0】

図 1 において、左右の腕部 1 2，1 3 は本体部 1 1 の中央線に対して対象形状になっている。それぞれの腕部 1 2，1 3 は、電子モジュール 2 の両端が案内又

は支持されるスロット 2 8 を有する。スロット 2 8 の途中に、電子モジュール 2 の両端のくぼみ 9 6 に対応する突出部 2 9 が設けられている。

【 0 0 2 1 】

第 1 通気口 2 1 は、基部 1 4, 1 6 の間であって、本体部 1 1 の下方に設けられる。この通気口 2 1 を上から下に横切るように前側コンタクト 2 6 と後側コンタクト 2 7 が下方に延びているが、この前側コンタクト 2 6 同士の間隙及び後側コンタクト 2 7 同士の間隙にも空気が流れる。

【 0 0 2 2 】

第 2 通気口 2 2, 2 3 は、基部 1 4, 1 5 及び基部 1 6, 1 7 の間であって、腕部 1 2, 1 3 の下方に一对となって設けられる。この通気口 2 2, 2 3 は、空気を吸い込み易くするために、外方に向かう程開口が大きくなるような傾斜面 3 1 を有するものが好ましい。なお、第 1 通気口 2 1 及び第 2 通気口 2 2, 2 3 は、下方に開放された開口に限らず、下方が閉じられた四角形状の開口であってもよい。

【 0 0 2 3 】

本体部 1 1、腕部 1 2, 1 3、基部 1 4, 1 5, 1 6, 1 7 は、絶縁性の樹脂で一体に成形される。ただし、本体部 1 1 と腕部 1 2, 1 3 を別体で成形し、嵌め込みによりこれらを一体化してもよい。基部 1 4, 1 5, 1 6, 1 7 も、腕部 1 2, 1 3 に対して嵌め込みにより一体化してもよい。さらに、腕部 1 2, 1 3 の両端に設けられた基部 1 4, 1 5 に代わり、本体部 1 1 の長手方向の両端に設けられた基部とすることもできる。

【 0 0 2 4 】

上述した構造のコネクタ 1 と電子モジュール 2 の装着方法を図 1 により説明する。電子モジュール 2 の基板 9 1 の長手方向の両端をスロット 2 8 に差し込む。スロット 2 8 の突出部 2 9 があるため、一对の腕部 1 2, 1 3 は外方に押し開かれるが、電子モジュール 2 のくぼみ 9 6 が突出部 2 9 に係合するまで差し込む。すると、図 2 のように、電子モジュール 2 の先端がキャビティ 2 5 内に入り、導電パッド 9 4, 9 5 がコンタクト 2 6, 2 7 の一端 2 6 1, 2 7 1 に接触し、電子モジュール 2 とコンタクト 2 6, 2 7 との電氣的接続が行われる。その後、電

子モジュール 2 の両側端が一对の腕部 1 2, 1 3 で保持される。

【0025】

図 3 は、電子モジュール 2 を装着したコネクタ 1 のマザーボード 3 への取り付け状態を示している。マザーボード 3 に沿って冷却のための風 3 2 が形成されている。電子モジュール 2 の反装着側から入った風 3 2 は、第 1 通気口 2 1 を抜ける風 3 3 と、第 2 通気口 2 2, 2 3 を抜ける風 3 4, 3 5 の 3 方向に分かれて流れる。これにより、電子モジュール 2 の下面に空気流が形成され、この空気流によって電子モジュール 2 の下面に取り付けられた電子チップが冷却される。また、電子モジュール 2 の上面にも風 3 2 による空気流が形成されているため、電子モジュール 2 の上面に取り付けられた電子チップも同時に冷却される。この電子モジュール 2 の上面の冷却を効率的に行うため、本体部 1 1 の下方の通気口 2 1 及び一体の腕部 1 2, 1 3 の下方の通気口 2 2, 2 3 に加えて又は代えて、本体部 1 1 の上方又は一对の腕部 1 2, 1 3 の上方の少なくとも一方に通気口を設けることもできる。

【0026】

図 4 及び図 5 は、風 3 2 を電子モジュール 2 の側に取り込みやすくするため、腕部 1 2, 1 3 の先端に整流手段として機能する整流プレート 3 8, 3 9 を取り付けしたコネクタ 1 を示す。また、この整流プレート 3 8, 3 9 は、電子モジュール 2 の反装着側の端を載置する支持手段としても機能する。

【0027】

図 4 の整流プレート（整流手段又は支持手段）3 8 は、板材 3 8 1 と、板材 3 8 1 の両端の脚部 3 8 2, 3 8 3 と、板材 3 8 1 の中央の脚部 3 8 4 とを樹脂又は金属により一体に成形してなる。脚部 3 8 2, 3 8 3 は外方に向かって広がり、風 3 2 と共に運ばれる空気を電子モジュール 2 の下面に向かって取り込み易い形状になっている。板材 3 8 1 の電子モジュール 2 の側の端には図示されない段差が設けられ、前記段差に電子モジュール 2 の反装着側の端を載置できる。これにより、電子モジュール 2 の長手方向の撓み又は変形を防止することができる。この整流プレート 3 8 のコネクタ 1 に対する取り付けは、電子モジュール 2 を装着したコネクタ 1 をマザーボード 3 の上に取り付けた後、整流プレート 3 8 の両

端の平行な部分を腕部 1 2, 1 3 の間に差し込み、板材 3 8 1 の図示されない段差に電子モジュール 2 の反装着側の端を載せ、脚部 3 8 2, 3 8 3, 3 8 4 を接着等の適宜手段によりマザーボード 3 の上に固定することにより行われる。

【 0 0 2 8 】

図 5 の整流プレート（整流手段又は支持手段）3 9 は、上板 3 9 1 と、中板 3 9 2 と、下板 3 9 3 と、両端の側板 3 9 4, 3 9 5 と、4 分割用の三枚の中仕切り板 3 9 6 とをアルミニウム等の金属により一体に成形してなる。側板 3 9 4, 3 9 5 は外方に向かって広がり、風 3 2 で運ばれる空気を電子モジュール 2 の下面に向かって取り込み易い形状になっている。中板 3 9 2 の電子モジュール 2 の側の端には図示されない段差が設けられ、前記段差に電子モジュール 2 の反装着側の端が載置される。上板 3 9 1 と中板 3 9 2 の間に、電子モジュール 2 の上面に対する空気取り込み口が形成される。中板 3 9 2 と下板 3 9 3 の間に、電子モジュール 2 の下面に対する空気取り込み口が形成される。整流プレート 3 9 の中板 3 9 2 が電子モジュール 2 に接触する構造にし、整流プレート 3 9 の全体を金属で成形すると、前記整流プレート 3 9 は電子モジュール 2 の熱を取り込んで放熱するヒートシンクの機能を果たす。なお、この整流プレート 3 9 のコネクタ 1 に対する取り付けは、図 4 の整流プレート 3 8 と同様の手順により行われる。

【 0 0 2 9 】

図 6 は、ハウジング（ハウジング手段）1 1 0 が四角形になったものを示す。ハウジング 1 1 0 は、本体部 1 1 と、本体部 1 1 の両端に一体に設けられた一对の腕部 1 2, 1 3 と、腕部 1 2, 1 3 の端に一体に設けられた台座 1 8 とからなる。台座 1 8 の下方にも通気口 2 4 を設けることにより、通気口 2 4 から、第 1 通気口 2 1 及び第 2 通気口 2 2, 2 3 に抜ける空気流が形成される。

【 0 0 3 0 】

図 7 は、電子モジュールの短手方向に風を流すのに適した構造を有し、第 3 発明に対応する第 2 の実施形態のコネクタ 1 0 1 を示す斜視図である。

【 0 0 3 1 】

図 7 のコネクタ 1 0 1 が図 1 のコネクタ 1 と異なる点は、腕部 1 2, 1 3 の下方に設けられた基部 1 4 ~ 1 7 に代わり、腕部 1 2, 1 3 の各々の下方に一枚の

壁部材（壁手段）４１，４２が設けられている点である。コネクタ１０１の他の構造は図１のコネクタ１と同じであるため、同じ符号を付してその詳細説明を省略する。

【００３２】

この壁部材４１，４２により、本体部１１の下方にだけ通気口（通気手段）４３が形成され、壁部材４１，４２は通気口４３の側面のガイドとしての機能を果たす。この壁部材４１，４２は腕部１２，１３と樹脂等で一体に成形され、腕部１２，１３も本体部１１と樹脂等で一体に成形されることが好ましい。ただし、本体部１１と腕部１２，１３の一体成形物に、別に成形された壁部材４１，４２を腕部１２，１３の下に嵌め込んでもよい。

【００３３】

コネクタ１０１に図示されない電子モジュールを装着すると、電子モジュールの下面は図示されないマザーボードから持ち上げられ、通気口４３に向かう空気流が形成される。本体部１１の下方にだけ通気口４３を有するコネクタ１０１を用いると、図示されないマザーボード上に電子モジュールを装着したコネクタの複数を本体部１１同士が平行になるように並べて配置し、この配置により複数の通気口４３に対して共通の風を流すことができる。また、本体部１１の下方の通気口４３と一对の腕部１２，１３の下方の壁部材４２に加えて又は代わりに、本体部１１の上方の通気口と一对の腕部の上方の壁部材とし、電子モジュールの短手方向の上方に風を流すことができる。

【００３４】

図８は、電子モジュール２を装着したコネクタ１０１の複数をマザーボード３に直列に並べて取り付ける状態を示す。各コネクタ１０１の腕部１２，１３の前後に、別体のプレート状の壁部材４５を取り付けるためのスリット４６が形成されている。図示のように、３つのコネクタ１０１を腕部１２，１３の向きに直列に並べてマザーボード３の上に取り付ける。隣り合うコネクタ１０１の腕部１２，１３の前後のスリット４６にプレート状の壁部材４５を差し込むと、隣り合うコネクタ１０１の腕部１２，１３同士が連結される。

【００３５】

図示のように、第1のコネクタ101の腕部12、13の後端からの風47の一部は電子モジュール2の下面を経て本体部11の下方の通気口43から吹き出す。第1のコネクタ101の通気口43からの風は、第2のコネクタ101に入る。第2のコネクタ101の通気口43から出た風は、第3のコネクタ101に入る。第3のコネクタ101の通気口43から出た風48となって吹き出す。このとき、コネクタ101の腕部12、13同士を連結する壁部材45により、隣り合うコネクタ101の腕部12、13の隙間が埋められるため、風47から風48への通りが良くなる。

【0036】

図9に示すように、風47の最上流に位置する第1のコネクタ101からの風47の取り込みを良くするため、腕部12、13に対する電子モジュール2の反挿入側の端に整流プレート（整流手段）38を設けることが好ましい。この整流プレート38は、電子モジュール2の基板の端を載置する支持手段の機能も併せ持ち、その詳細構造は図4で説明したものと同一である。また、図4の整流プレート38に代わり、図5の整流プレート（整流手段）39を、図9の第1のコネクタ101に取り付けることもできる。

【0037】

図10は、図8の壁部材45により連結された隣り合うコネクタ101の間に生じる上面の空間を埋めるために、壁部材と兼用されるカバー51を取り付けた状態を示している。カバー51は、壁部511と、上板512と、折り曲げ部513を一体に成形したものである。壁部511は、隣り合うコネクタ101の腕部12、13の前後のスリット46に嵌まり、隣り合うコネクタ101の間の側面の隙間を埋める。上板512は、隣り合うコネクタ101の本体部11と電子モジュール2との間の上面の空間を埋める。折り曲げ部513は腕部12、13から電子モジュール2までの段差の部分埋める。このカバー51を取り付けると、風47の最上流に位置する第1のコネクタ101で取り込まれた空気の殆どが、第2コネクタ101と第2コネクタ101を経て風48として抜けるようになる。

【0038】

図 11 は、隣り合うコネクタ 101 の腕部 12, 13 同士を直接連結する場合を示している。腕部 12, 13 の後端に雌形の係合部 52 を形成し、腕部 12, 13 の前端に雄形の係合部 53 を形成している。一方のコネクタ 101 をマザーボード 3 の上に取り付け、他方のコネクタ 101 を上から押し下げ、雄雌の係合部 53, 54 同士を係合させることにより、隣り合うコネクタ 101 同士を連結させることができる。隣り合うコネクタ 101 の腕部 12, 13 同士を連結すると、図 8 のような別体の壁部材 45 が不必要になるとともに、隣り合うコネクタ 101 同士の間の上面の空間も狭くなる。ただし、必要に応じて、隣り合うコネクタ 101 同士の間の上面の空間を埋める上板を設けることもできる。

【0039】

図 12 は、隣り合うコネクタ 101 同士を連結させなくとも、別体のカバー 54 をマザーボード 3 に取り付けることにより、風 47 から風 48 の通りを良くする場合を示している。隣り合うコネクタ 101 の腕部 12, 13 は連結されことなく両者の間には隙間がある。カバー 54 は、上板 541 と両側板 542 とを有してなる。電子モジュール 2 が装着されたコネクタ 101 の複数をマザーボード 3 の上に図示のように直列に配置にして取り付ける。カバー 54 を複数のコネクタ 101 に被せて、カバー 54 をマザーボード 3 の上に固定する。最も上流側にあるコネクタ 101 の通気口に向かって図示されない送風手段を設置するか、又は、最も下流側にあるコネクタ 101 の通気口に向かって図示されない吸気手段を設置する。両側板 542 の高さは、カバー 54 の上板 541 と本体部 11 の間に適当な空間が存在する高さになっており、電子モジュール 2 の上面にも風 47 から風 48 の流れが生じる。カバー 54 の両側板 542 は腕部 12, 13 と近接配置されており、電子モジュール 2 の下面に取り込まれた風 47 は、上流の第 1 コネクタ 101 から下流の第 3 コネクタ 101 と順番に流れて、風 48 となって吹き出す。また、カバー 54 の代わりに、ノートパソコンの筐体の一部が使われてもよい。

【0040】

図 8 乃至図 12 のいずれのコネクタ 101 に於いても、図 7 の本体部 11 の下方の通気口 43 を経て空気が流れる。通気口 43 には、多数の前コンタクト 26

と後コンタクト 2 7 が立設されているが、多数の後コンタクト 2 7 の間及び多数の前コンタクト 2 6 の間を通して風が流れる。この風を通し易く、且つ風が運ぶ埃が前後コンタクト 2 6, 2 7 に溜まりにくいコンタクト構造を図 1 3 乃至図 1 8 により説明する。

【0 0 4 1】

図 1 3 に、本体部 1 1 から下方に延びる前後コンタクト 2 6, 2 7 の部分拡大が示される。コンタクト 2 6, 2 7 の列設方向の隙間は十分あり、この隙間を風が通る。ただし、風の通りの中に多数のコンタクト 2 6, 2 7 が立設しているため、コンタクト 2 6, 2 7 の前後に渦ができ、圧力損失が大きくなる。この圧力損失を少なくするため、コンタクト 2 6, 2 7 の下に延びる部分の断面を流線型にすることが好ましい。

【0 0 4 2】

図 1 4 は、流線形状の好ましい例を図示する。図 1 4 (a) は、コンタクト 2 6, 2 7 の断面形状を菱形にしたものを示す。風が前後方向のいずれに吹いても、コンタクト 2 6, 2 7 の前後の渦流を少なくできる。図 1 4 (b) は、コンタクト 2 6, 2 7 の断面形状を半円と長方形の組み合わせにしたものを示す。この場合も、風が前後方向のいずれに吹いても、コンタクト 2 6, 2 7 の前後の渦流を少なくできる。図 1 4 (c) は、コンタクト 2 6, 2 7 の断面形状を三角突起と長方形の組み合わせにしたものを示す。この場合は、風が三角突起に向かって吹いたときに、コンタクト 2 6, 2 7 の前後の渦流を少なくできる。

【0 0 4 3】

図 1 5 は、前コンタクト 2 6 と後コンタクト 2 7 との間の細長い空間を閉鎖する薄板（クロージャ手段）5 5 を設けた場合を示す。薄板 5 5 は、本体部 1 1 と一体に成形されている。前後のコンタクト 2 6, 2 7 の間の細長い空間を薄板 5 5 で閉鎖することにより、コンタクト 2 6, 2 7 による渦流の発生を阻止するとともに、コンタクト 2 6, 2 7 に埃が溜まることも阻止する機能を発揮する。この薄板 5 5 を設ける場合、コンタクト 2 6, 2 7 の下に延びる部分の断面は流線型にすることが好ましいが、流線型でなくても十分上記機能を発揮する。

【0 0 4 4】

図 1 6 は、前コンタクト 2 6 に防塵用の板（防塵手段）5 6 を設けた場合を示す。板 5 6 は、本体部 1 1 と一体に成形されている。前コンタクト 2 6 の風上に板 5 6 があることにより、前コンタクト 2 6 同士の間には埃が溜まってショートすることが防止される。後コンタクト 2 7 に対する板は図示されないが、風上に対する同様の板を設けることが好ましい。後コンタクト 2 7 の風上に対する板は、後コンタクト 2 7 を本体部 1 1 に取り付けした後、別部品として本体部 1 1 に取り付けることができる。

【0 0 4 5】

図 1 7 は、前コンタクト 2 6 の各々に防塵用の囲い（防塵手段）5 7 を設けた場合を示す。囲い 5 7 は、前コンタクト 2 6 の上流側と両側面を覆う形状を有し、本体部 1 1 と一体に成形されている。囲い 5 7 に埃が溜まり、前コンタクト 2 6 同士の間には埃が溜まってショートすることが防止される。内側に位置する後コンタクト 2 7 に対する囲いは図示されないが、風下に向かって開口する同様の囲い板を設けらるることが好ましい。後コンタクト 2 7 の風上に対する囲いは、後コンタクト 2 7 を本体部 1 1 に取り付けした後、別部品として本体部 1 1 に取り付けることができる。

【0 0 4 6】

図 1 8 は、前コンタクト 2 6 同士の間各々に防塵用の仕切り板（仕切り手段）5 8 を設けた場合を示す。仕切り板 5 8 は、本体部 1 1 と一体に成形されている。前コンタクト 2 6 の間を仕切ることにより、前コンタクト 2 6 同士を連結するように埃が溜まることも阻止する。この仕切り板 5 8 は、内側にある後コンタクト 2 7 の間にも延びており、後コンタクト 2 7 同士の間も仕切る。

【0 0 4 7】

なお、図 1 3 乃至図 1 8 で説明したスペーサ、薄板、板、囲い及び仕切り板は、図 7 の第 2 実施形態のコネクタ 1 0 1 に好適であるが、図 1 の第 1 実施形態のコネクタ 1 のように、本体部 1 1 の下方の第 1 通気口 2 1 に風が流れる場合にも、これらのスペーサ、薄板、板、囲い及び仕切り板のいずれかを適用することができる。

【0 0 4 8】

図 1 9 は、電子モジュールの長手方向に風を流すのに適した構造を有し、第 4 発明に対応する第 3 の実施形態のコネクタ 1 0 2 を示す斜視図である。

【 0 0 4 9 】

図 1 9 のコネクタ 1 0 2 が図 1 のコネクタ 1 と異なる点は、本体部 1 1 の下方に壁部材（壁手段）6 1 が設けられている点である。コネクタ 1 0 2 の他の構造は図 1 のコネクタ 1 と同じであるため、同じ符号を付してその詳細説明を省略する。

【 0 0 5 0 】

この壁部材 6 1 は、基部 1 4、1 5、1 6、1 7 と同じ高さを有する。そのため、腕部 1 2 の下側で基部 1 4、1 5 の間と、腕部 1 3 の下側で基部 1 6、1 7 の間とに一对の通気口（通気手段）6 2、6 3 が形成される。壁部材 6 1 は、通気口 6 2、6 3 の一方の側面のガイドとしての機能を果たす。この壁部材 6 1 は本体部 1 1 と樹脂等で一体に成形されることが好ましい。ただし、本体部 1 1 と腕部 1 2、1 3 の一体成形物に、別に成形された壁部材 6 1 を本体部 1 1 の下に嵌め込んでもよい。また、本体部 1 1 の下方の壁部材 6 1 によりコネクタ 1 0 2 を図示されないマザーボードに取り付けることができる場合、基部 1 4、1 5、1 6、1 7 を省略することができる。

【 0 0 5 1 】

コネクタ 1 0 2 に図示されない電子モジュールを装着すると、電子モジュールの下面は図示されないマザーボードから持ち上げられ、通気口 6 2 から通気口 6 3 又は通気口 6 3 から通気口 6 2 に向かう空気流が形成される。これにより、電子モジュールの長手方向に複数取り付けられた電子チップに沿って風を流すことができる。また、本体部 1 1 の下方の壁部材 6 1 と一对の腕部 1 2、1 3 の下方の通気口 6 2、6 3 に加えて又は代わりに、本体部 1 1 の上方の壁部材と一对の腕部の上方の通気口とし、電子モジュールの長手方向の上流に風を流すことができる。

【 0 0 5 2 】

図 2 0 は、腕部 1 2、1 3 の端同士を連結する壁部材 6 5 を示す。コネクタ 1 0 2 に電子モジュール 2 を装着したあと、腕部 1 2、1 3 の両端同士に壁部材 6

5 が嵌め込まれる。壁部材 6 5 に電子モジュール 2 の端を載せる段差を設けることが好ましい。これにより、電子モジュール 2 の長手方向の反りを少なくすることができる。壁部材 6 5 の両端を内側に屈曲させる屈曲部 6 5 1 にすることが好ましい。この屈曲部 6 5 1 により、通気口 6 3 から通気口 6 2 に向かう内部の空気流が整流される。この壁部材 6 5 のコネクタ 1 0 2 に対する取り付けは、電子モジュール 2 を装着したコネクタ 1 0 2 を図示されないマザーボードの上に取り付けた後、壁部材 6 5 を腕部 1 2, 1 3 の両端の間に嵌め込み、壁部材 6 5 の図示されない段差に電子モジュール 2 の反装着側の端を載せ、壁部材 6 5 の下側を接着等の適宜手段により図示されないマザーボードの上に固定して行われる。本体部 1 1 の下方の図示されない壁部材 6 1 と図示の壁部材 6 5 の間に挟まれ、腕部 1 2, 1 3 の下方の通気口 6 2, 6 3 に風が良く流れる。

【 0 0 5 3 】

図 2 1 及び図 2 2 は、図 1 9 や図 2 0 のコネクタ 1 0 2 の複数を本体部 1 1 が平行になるように列設した場合、通気口 6 2, 6 3 を通る風を強制的に形成するための吸気手段や送風手段を設置する第 5 発明に対応する実施形態を示す。

【 0 0 5 4 】

図 2 1 において、コネクタ 1 0 2 の一方の通気口 6 2 に間隔を開けて吸引手段 7 1 が接続されている。吸引手段 7 1 は、吸引のためのダクト口 7 1 1 と、メインダクト 7 1 2 と、吸引ファン 7 1 3 とを備えてなる。ダクト口 7 1 1 は、コネクタ 1 0 2 の一方の通気口 6 2 に見合った形状を有している。ダクト口 7 1 1 から吸引された空気は、メインダクト 7 1 2 を経て吸引ファン 7 1 3 により引き出される。これにより、他方の通気口 6 3 から一方の通気口 6 2 に至る空気流が形成され、電子モジュール 2 の特に下面の電子チップが冷却される。他方の通気口 6 3 からの空気の取り入れを良くするために、通気口 6 3 が外方に向かって広がるような傾斜面 6 6 を設けることが好ましい。また、メインダクト 7 1 2 の代わりに、ノート型パソコンの筐体の一部が使われてもよい。

【 0 0 5 5 】

図 2 2 において、コネクタ 1 0 2 の一方の通気口 6 2 に間隔を開けて送風手段 7 2 が接続され、コネクタ 1 0 2 の他方の通気口 6 3 に間隔を開けて吸気手段 7

3が接続されている。送風手段72は、送風のためのダクト口721と、メインダクト722と、送風ファン723とを備えてなる。ダクト口721は、コネクタ102の一方の通気口62に見合った形状を有している。送風ファン723からの送り込まれた空気は、メインダクト722を経てダクト口721から吹き出される。吸気手段73は、吸引のためのダクト口731と、メインダクト732と、吸引ファン733とを備えてなる。ダクト口731は、コネクタ102の他方の通気口62に見合った形状を有している。ダクト口721から吹き出された空気は、一方の通気口62から他方の通気口63に向けて流れ、他方の通気口63からの空気は、ダクト731に吸引される。これにより、一方の通気口62から他方の通気口63に至る空気流が形成され、電子モジュール2の特に下面の電子チップが冷却される。また、メインダクト722、732の代わりに、ノート型パソコンの筐体の一部が使われてもよい。

【0056】

また、送風手段や吸気手段の接続は、図3乃至図6のコネクタや図8乃至図12のコネクタに対しても適用できる。

【0057】

図23は、図19や図20のコネクタ102と同様の機能を果たす他の実施形態のコネクタ103を示す。ハウジング（ハウジング手段）111は、電子モジュール2の先端側の本体部11と、電子モジュール2の他端側の支持部19とを分離して形成される。本体部11と支持部19の間に、一対の通気口241、242が形成される。この一対の通気口241、242を空気が通り抜ける。支持部19には、電子モジュール2を固定するロック手段191が設けられている。このロック手段191は、ロッド192の押し込みにより、ロック又はアンロックに切り換わる。

【0058】

なお、前述した第1実施形態乃至第3実施形態において、電子モジュールの両側端をコンタクトのスロット28に沿って挿入することによって、電子モジュールをコンタクトに装着するタイプに代わり、電子モジュールを本体部に向かって斜めに差し込み、腕部に向かって押し下げることにより、腕部に設けられたロッ

ク手段に電子モジュールが固定されるタイプ、又は、電子モジュールをスライディングプレートを介してコンタクトに装着するタイプを採用して本発明を実施することができる。

【 0 0 5 9 】

【発明の効果】

以上説明したように、第 1 の発明によると、このハウジング手段に対して設けられ、電子モジュールに沿って空気が通り抜けることを許容する通気手段を設ける構成にし、電子モジュールを装着したコネクタをマザーボードに実装すると、前記通気手段を経て、電子モジュールに空気が流れやすくなったので、電子モジュールを効率良く冷却することができる。

【 0 0 6 0 】

第 2 の発明によると、本体部に設けられた第 1 通気手段と、一对の腕部の各々に設けられた一对の第 2 通気手段とを備えてなる構成にし、電子モジュールを装着したコネクタをマザーボードに実装すると、前記第 1 通気手段及び第 2 通気手段を経て、電子モジュールに沿って空気が流れるようにしたので、電子モジュールの下面を含めた全面を効率良く冷却することができる。

【 0 0 6 1 】

第 3 の発明によると、本体部に設けられた通気手段と、一对の腕部の各々に設けられた壁手段とを備える構成にし、電子モジュールを装着したコネクタをマザーボードに実装すると、前記一对の腕部の各々に設けられた壁手段により両方の側面が囲われ、前記本体部に設けられた前記通気手段に向かって空気が流れるようにしたので、電子モジュールの短手方向に空気が流れやすく、電子モジュールの下面を含めた全面を効率良く冷却することができる。

【 0 0 6 2 】

第 4 の発明によると、一对の腕部の各々に設けられた一对の通気手段と、本体部に設けられた壁手段とを備える構成にし、電子モジュールを装着した前記コネクタをマザーボードに実装すると、前記本体部に設けられた壁手段により一方の側面が囲われ、前記一对の腕部に設けられた通気手段に向かって空気が流れるようにしたので、電子モジュールの長手方向に空気が流れやすく、電子モジュール

の下面を含めた全面を効率良く冷却することができる。

【0063】

第5の発明によると、電子モジュールを保持するハウジング手段に通気手段を設け、前記通気手段に対して吸気手段又は送風手段の少なくとも一つを設置し、コネクタと吸気手段又は送風手段の少なくとも一つの組み合わせる構成にすると、コネクタに装着された電子モジュールに前記コネクタを通り抜ける空気流が形成され、電子モジュールの全面を効率良く冷却することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の第1の実施形態のコネクタを示す斜視図である。

【図2】

コンタクトが取り付けられた本体部の断面図である。

【図3】

電子モジュールを装着したコネクタにマザーボードに実装された状態を示す斜視図である。

【図4】

電子モジュールを装着したコネクタの腕部の端に整流手段が取り付けられた状態を示す斜視図である。

【図5】

電子モジュールを装着したコネクタの腕部の端に他の整流手段が取り付けられた状態を示す斜視図である。

【図6】

本発明の他の実施形態のコネクタを示す斜視図である。

【図7】

本発明の第2の実施形態のコネクタを示す斜視図である。

【図8】

電子モジュールを装着したコネクタの2以上を列設し、腕部同士を壁部材を介して連結した状態を示す斜視図である。

【図9】

図 8 のコネクタ列の入口側に整流手段を取り付けた状態を示す斜視図である。

【図 1 0】

図 8 のコネクタ列の上面の空間に上板を取り付けた状態を示す斜視図である。

【図 1 1】

電子モジュールを装着したコネクタの 2 以上を列設し、腕部同士を係合部を介して直接連結した状態を示す斜視図である。

【図 1 2】

電子モジュールを装着したコネクタの 2 以上を列設し、カバーを被せた状態を示す斜視図である。

【図 1 3】

本体部から下方に延びる前後のコンタクトを示す斜視図である。

【図 1 4】

図 1 2 のコンタクトの断面の流線形状を示す断面図である。

【図 1 5】

本体部から下方に延びる前側コンタクトと後側コンタクトの間に設けられたクロージャ手段を示す斜視図である。

【図 1 6】

本体部から下方に延びる前側コンタクトと後側コンタクトの各々に設けられた防塵手段を示す斜視図である。

【図 1 7】

本体部から下方に延びる前側コンタクトと後側コンタクトの各々に設けられた防塵手段を示す斜視図である。

【図 1 8】

本体部から下方に延びる前側コンタクトと後側コンタクトの各々に対して隣り合うコンタクト同士の間を仕切る防塵用の仕切り手段を示す斜視図である。

【図 1 9】

本発明の第 3 の実施形態のコネクタを示す斜視図である。

【図 2 0】

電子モジュールを実装したコネクタの腕部の端に整流手段を取り付けた状態を

示す斜視図である。

【図 2 1】

電子モジュールを装着したコネクタの 2 以上を列設し、一方の腕部の下方の通気手段に対する吸引手段の取り付け状態を示す斜視図である。

【図 2 2】

電子モジュールを装着したコネクタの 2 以上を列設し、一方の腕部の下方の通気手段に対して吸引手段の取り付け、他方の腕部の下方の通気手段に対して送風手段を取り付けた状態を示す斜視図である。

【図 2 3】

本発明の他の実施形態のコネクタを示す斜視図である。

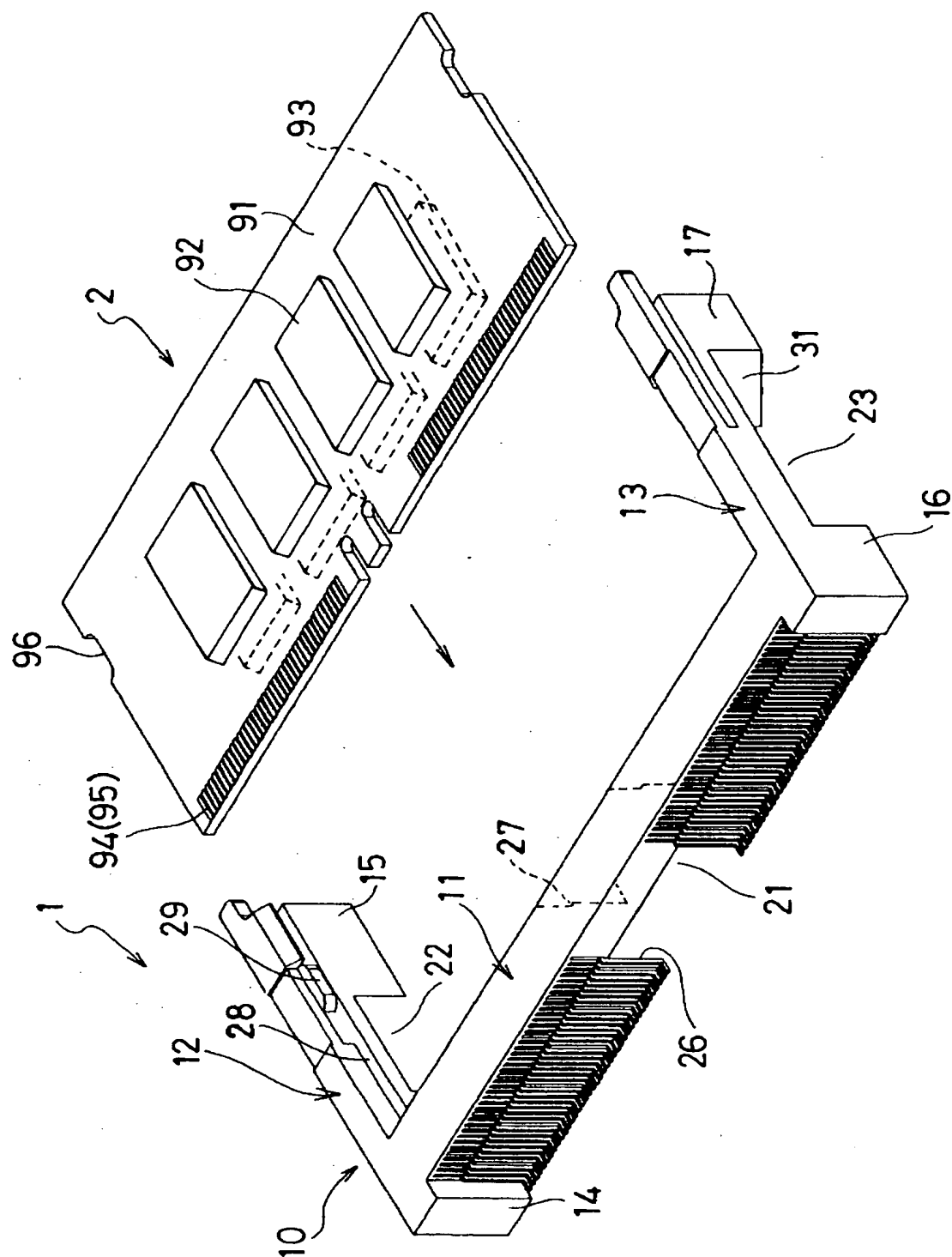
【符号の説明】

- 1, 1 0 1, 1 0 2 コネクタ
- 2 電子モジュール
- 3 マザーボード
- 1 1 本体部
- 1 2, 1 3 腕部
- 1 4, 1 5, 1 6, 1 7 基部
- 2 1 第 1 通気口（通気手段）
- 2 2, 2 3 第 2 通気口（通気手段）
- 2 6 前側コンタクト
- 2 7 後側コンタクト
- 3 1 傾斜面
- 3 8, 3 9 整流プレート（整流手段又は固定手段）
- 4 1, 4 2 壁部材（壁手段）
- 4 3 通気口（通気手段）
- 4 4 スリット（取り付け部）
- 5 1 2 上板
- 5 2, 5 3 係合部
- 5 5 薄板（クロージャ手段）

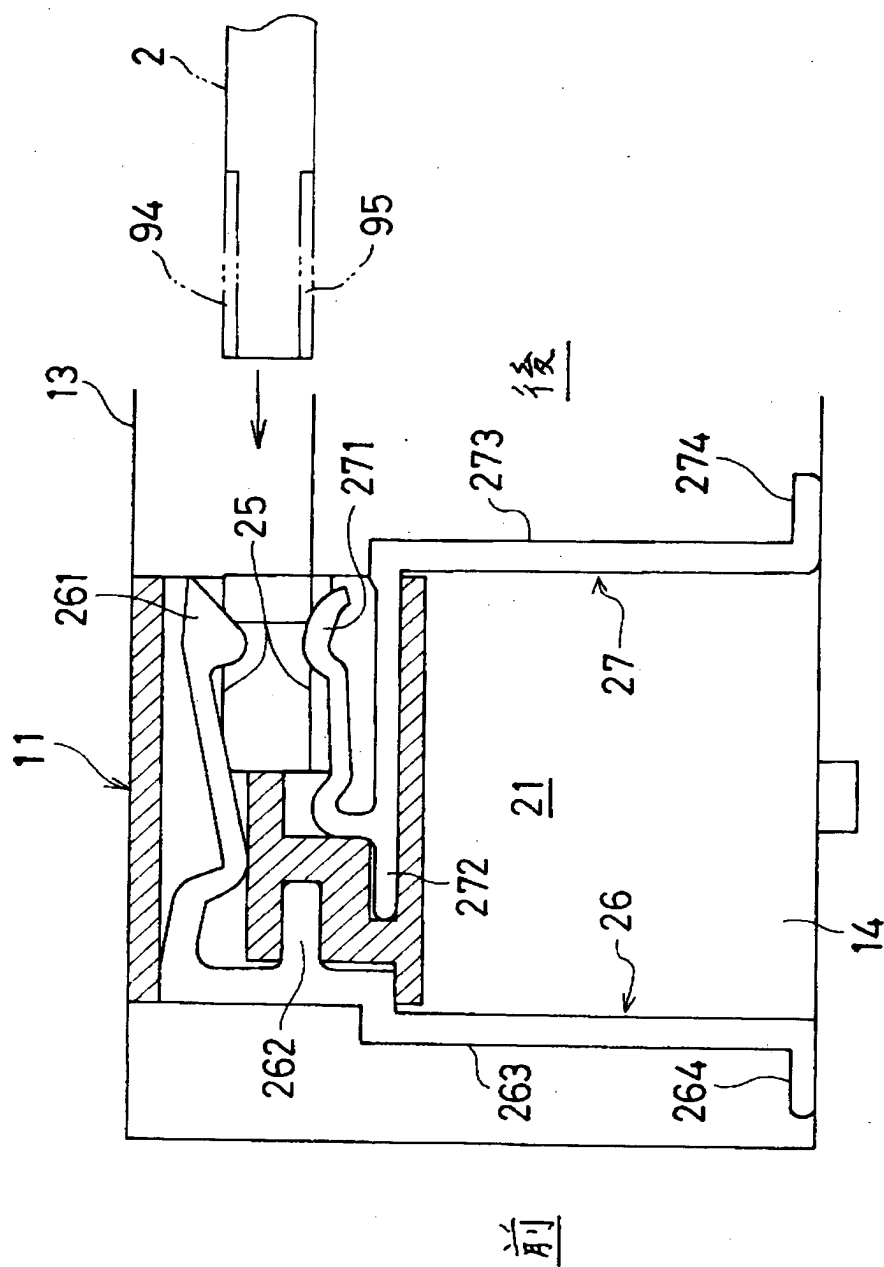
- 5 6 板（防塵手段）
- 5 7 囲い（防塵手段）
- 5 8 仕切り板（防塵用の仕切り手段）
- 6 1 壁部材（壁手段）
- 6 2, 6 3 通気口（通気手段）
- 6 5 壁部材
- 6 6 傾斜面
- 7 1 吸引手段
- 7 2 送風手段
- 7 3 吸引手段

【書類名】 図面

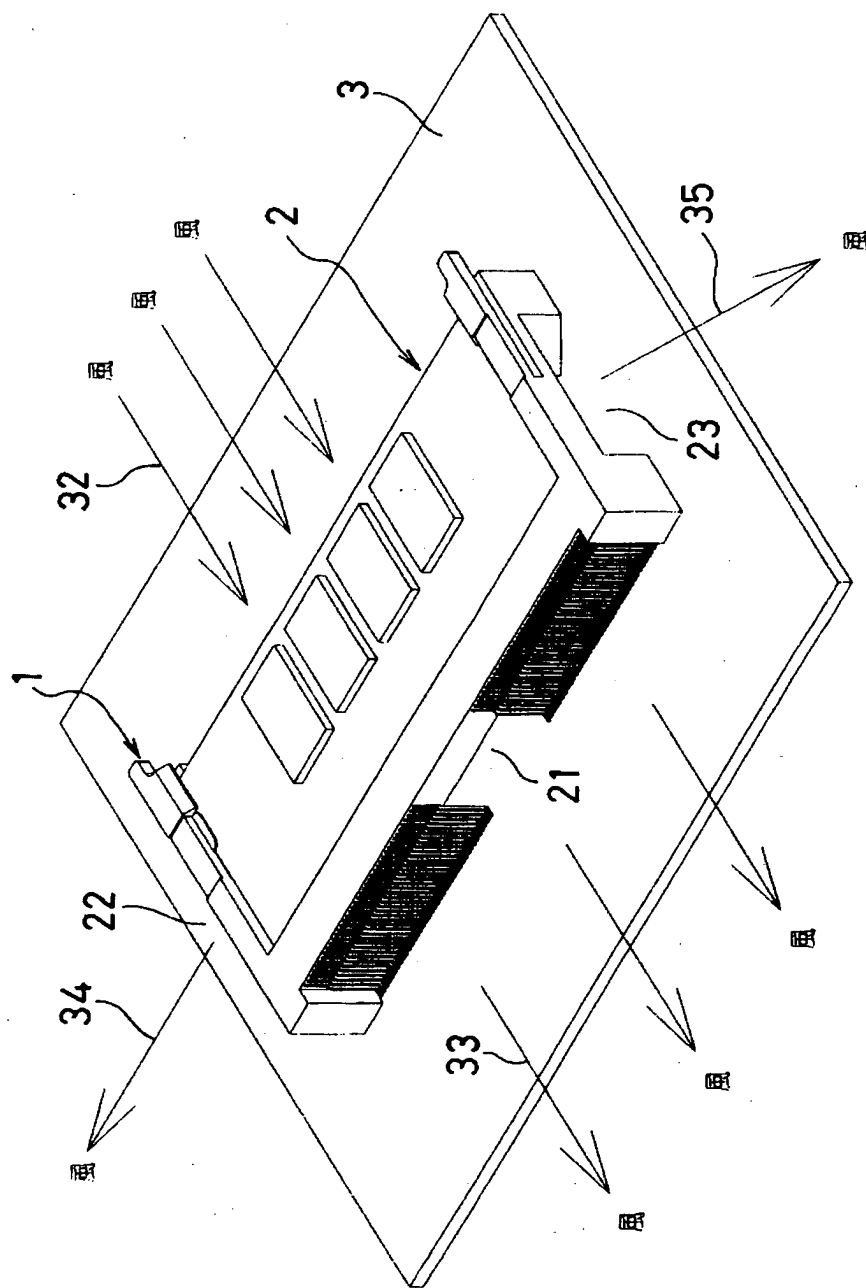
【図 1】



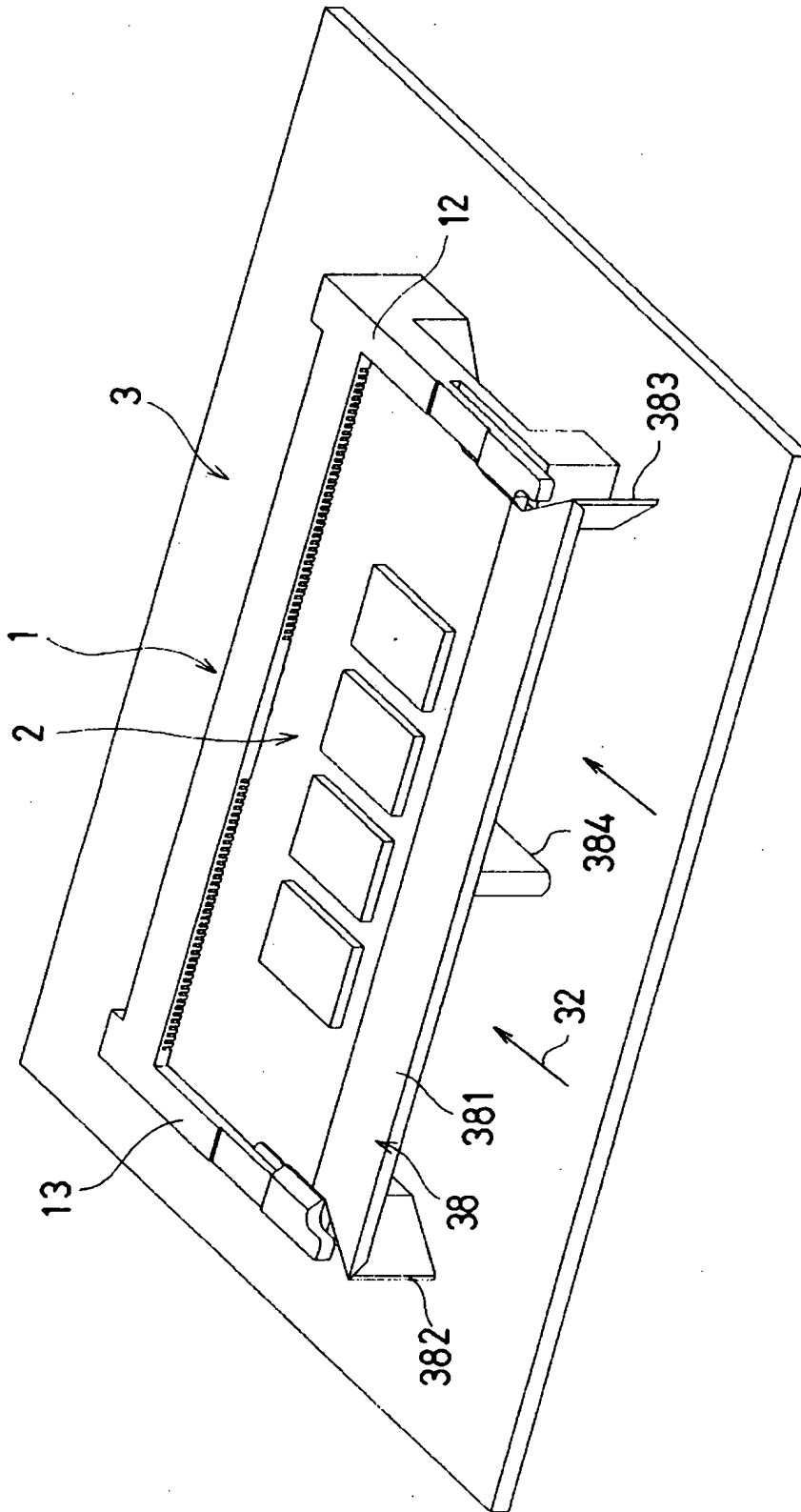
【図2】



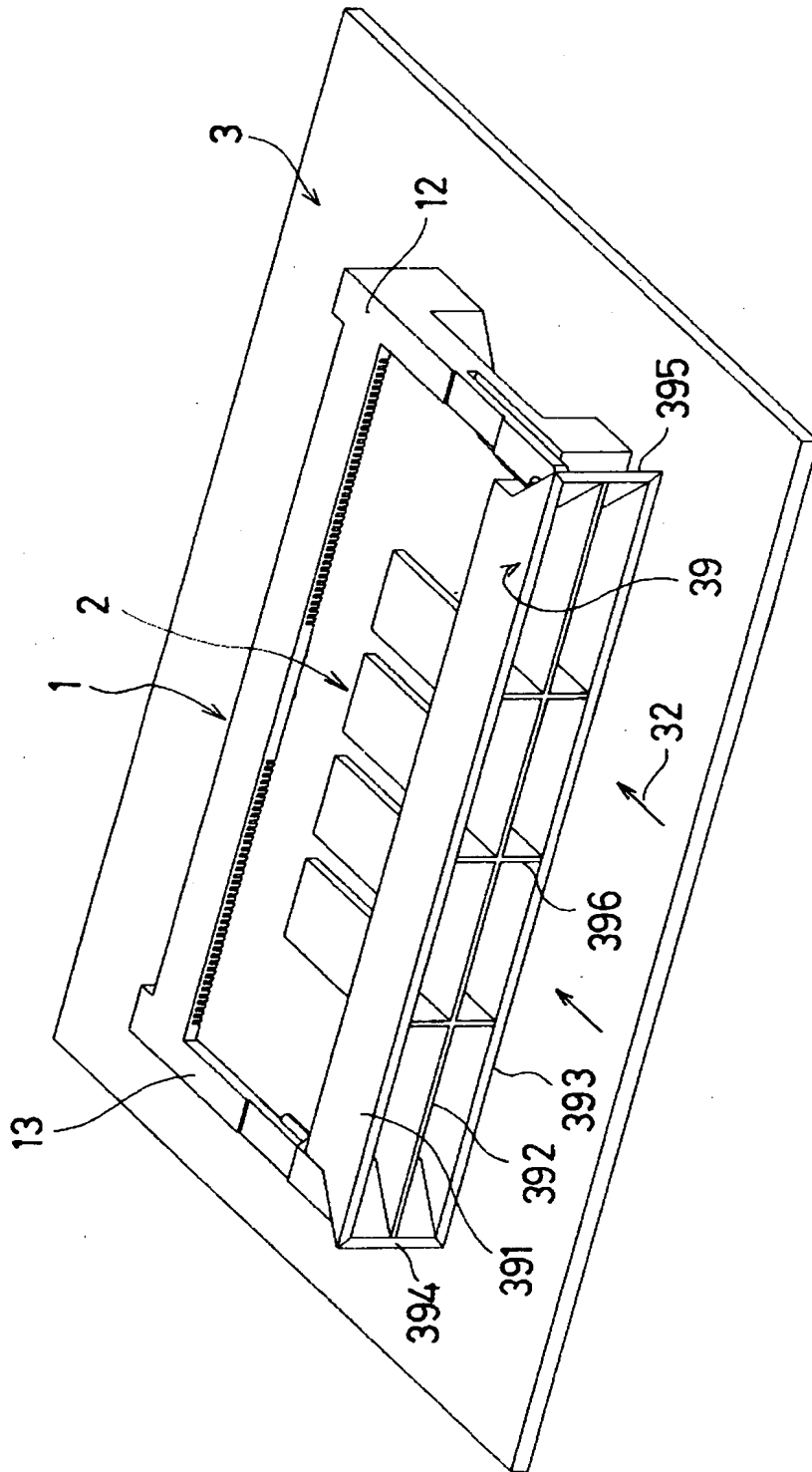
【图 3】



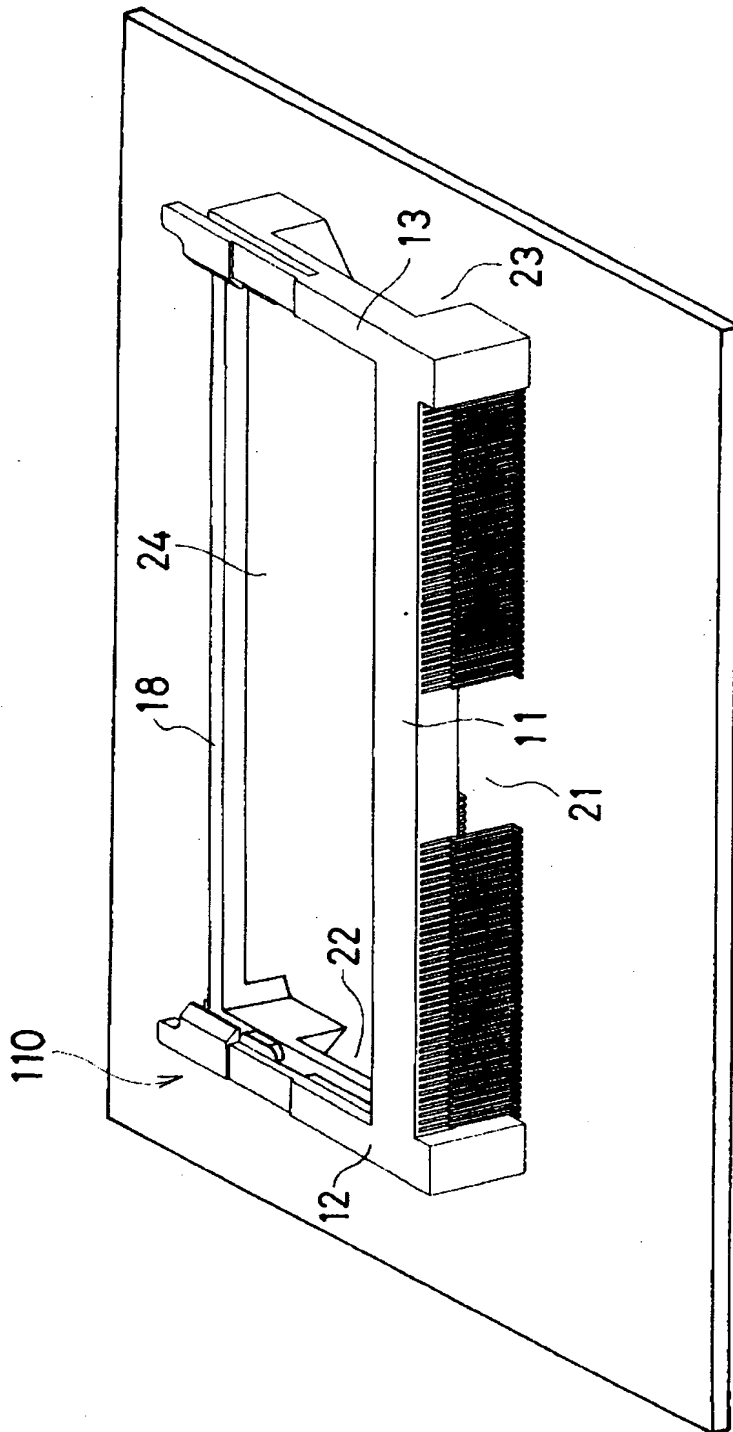
【図 4】



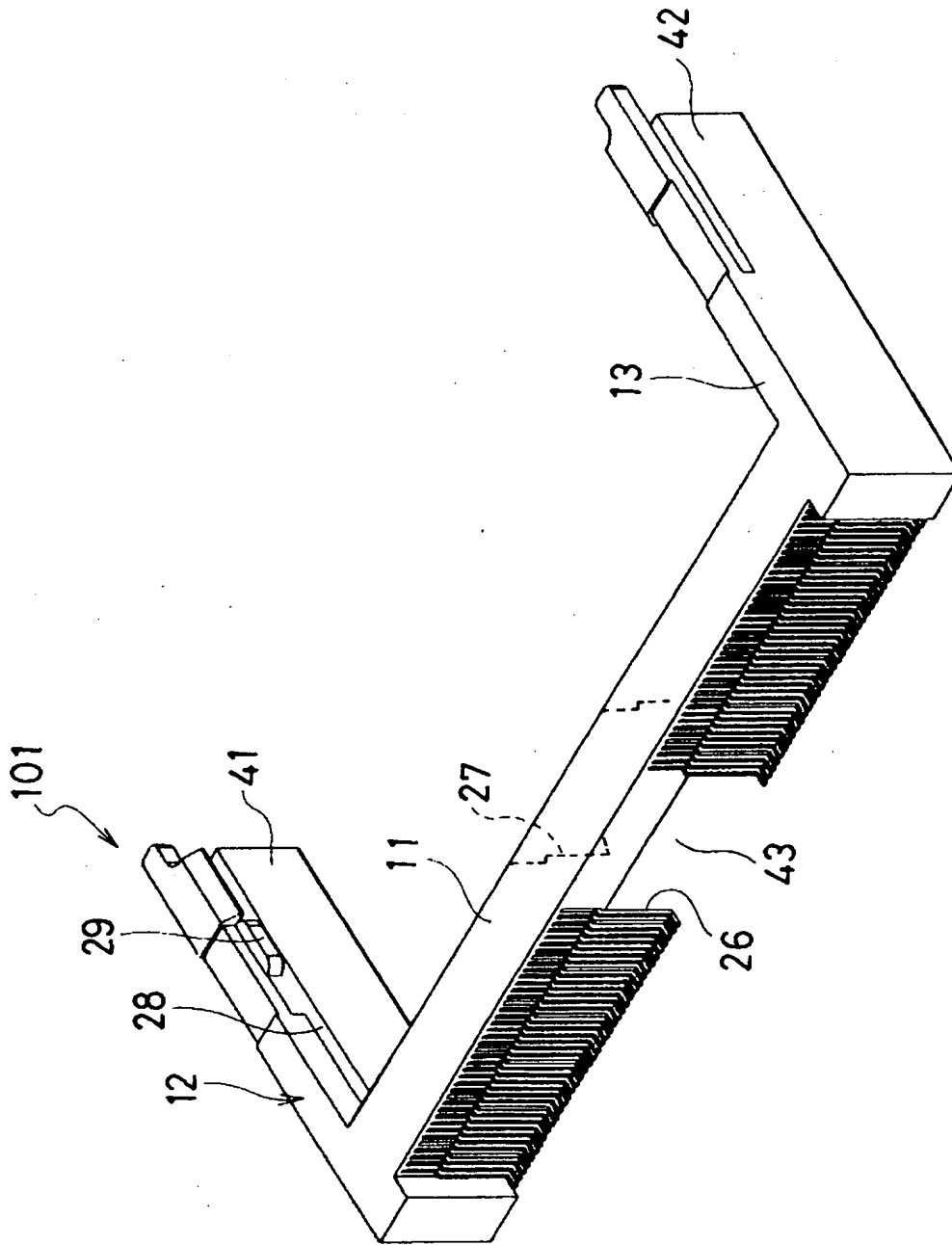
【図 5】



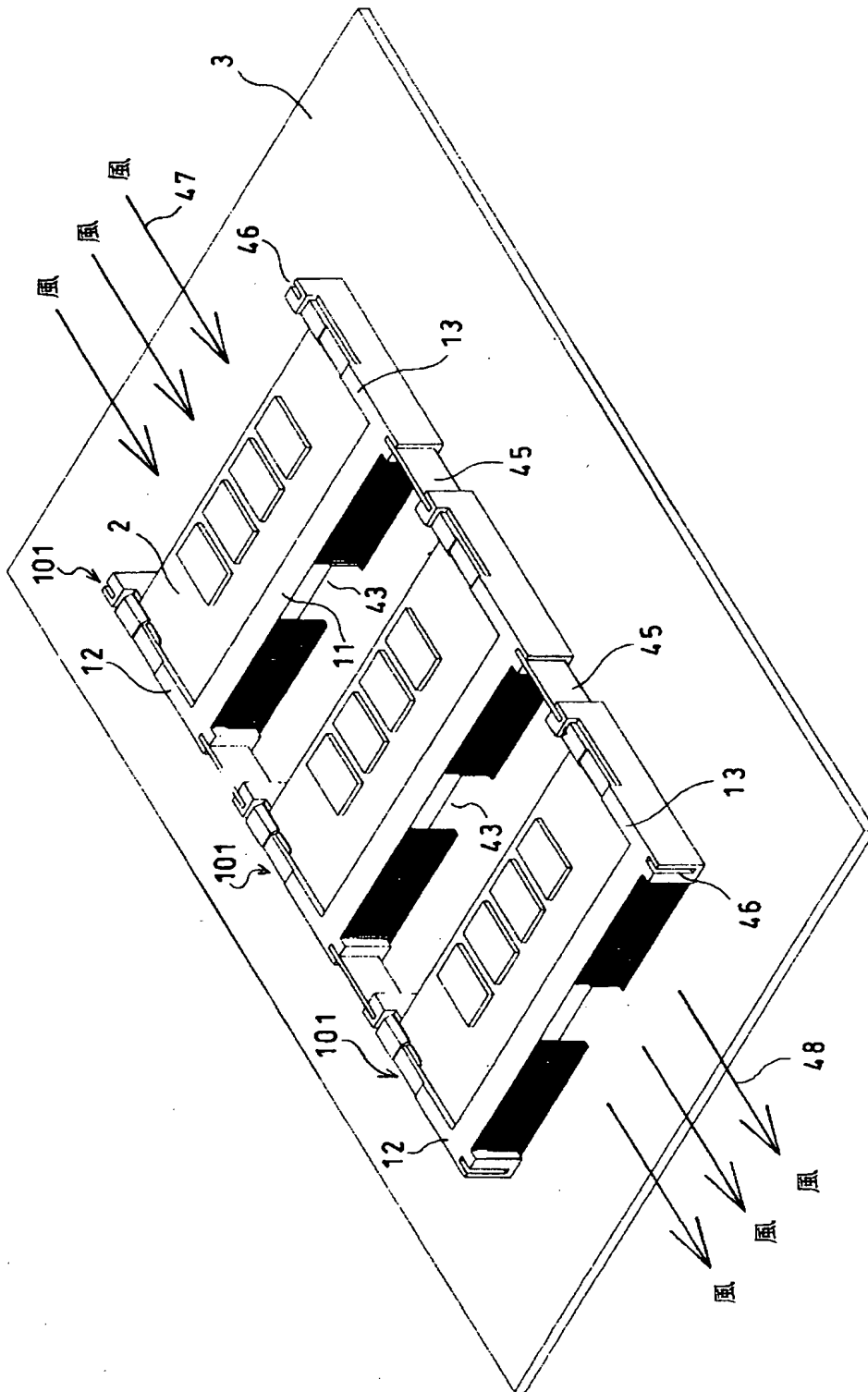
【図 6】



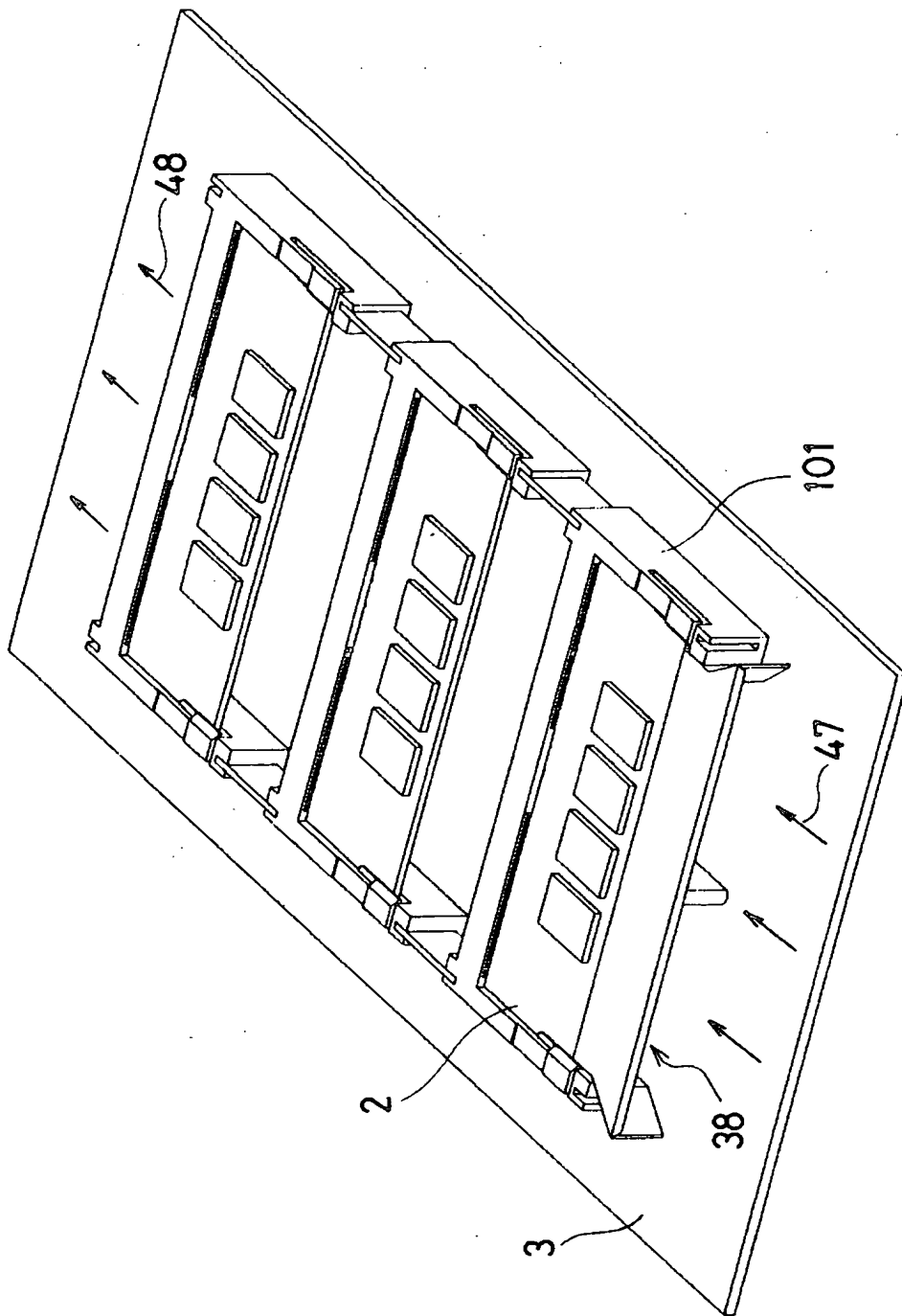
【図 7】



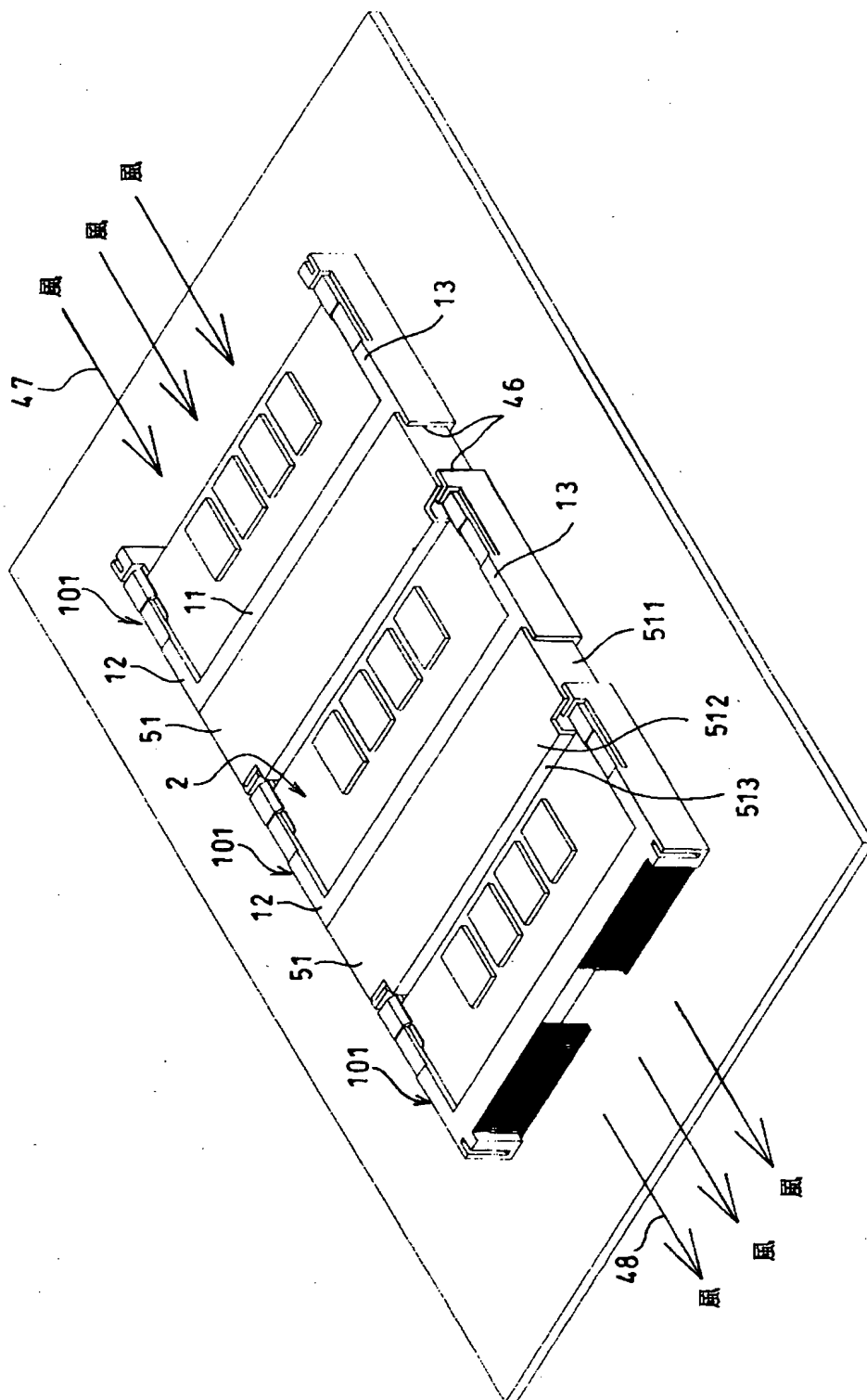
【図 8】



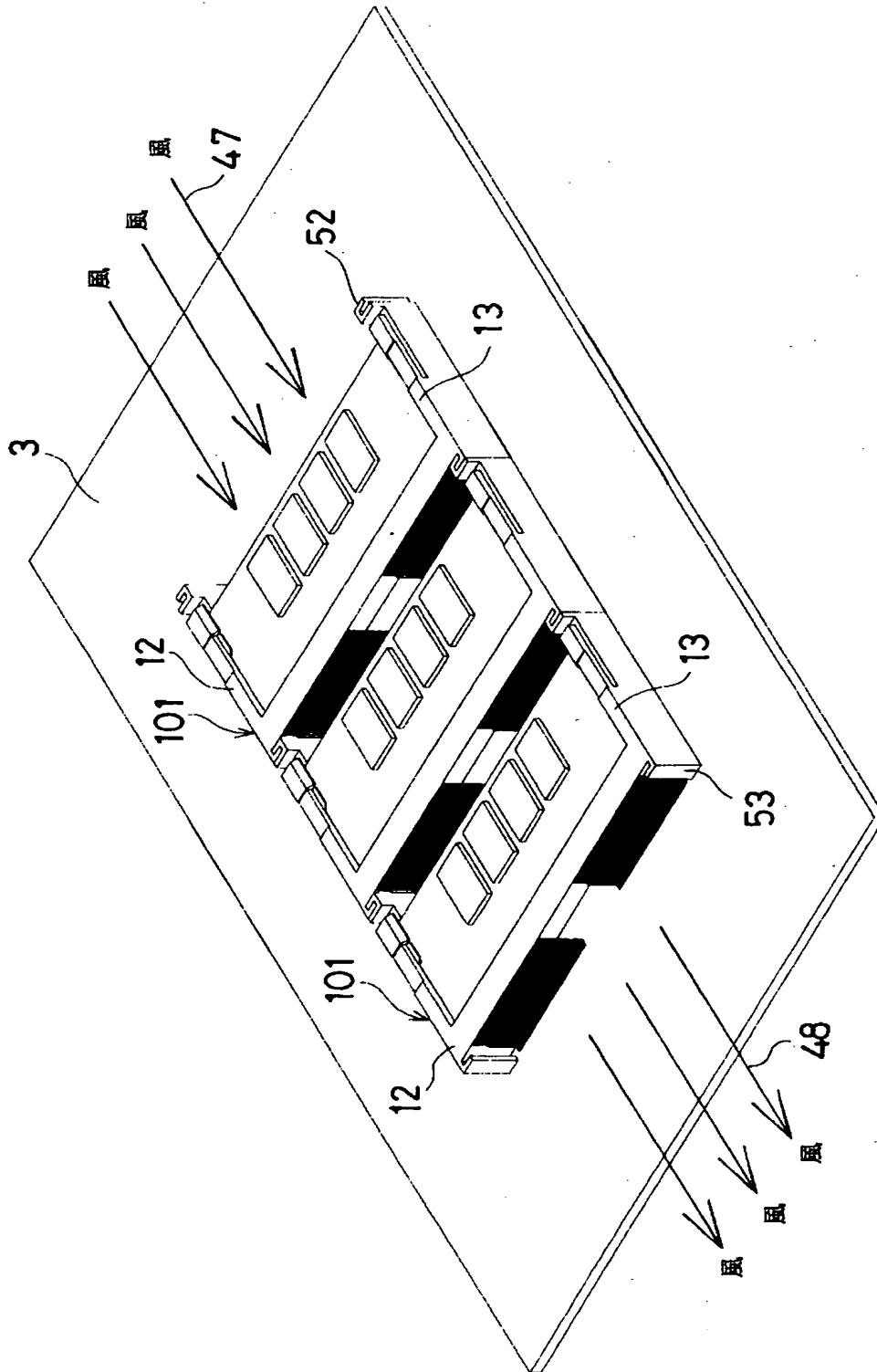
【図 9】



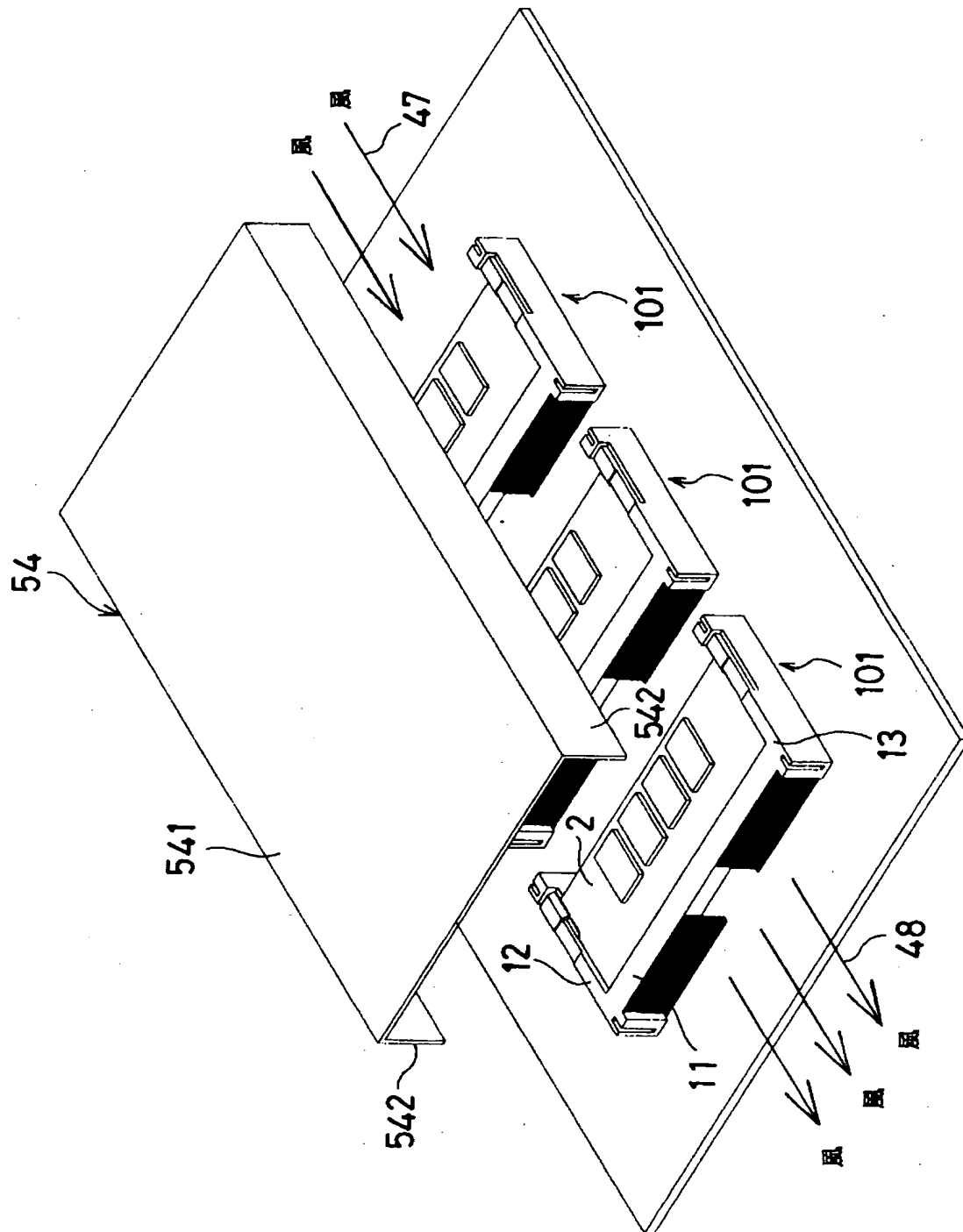
【図 1 0】



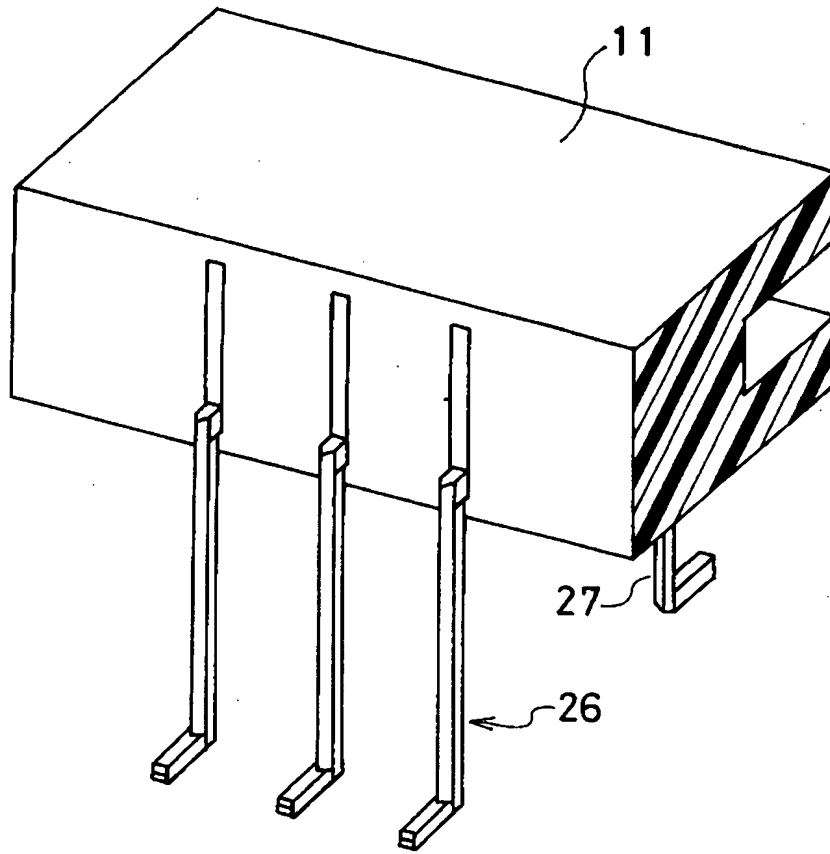
【図 1 1】



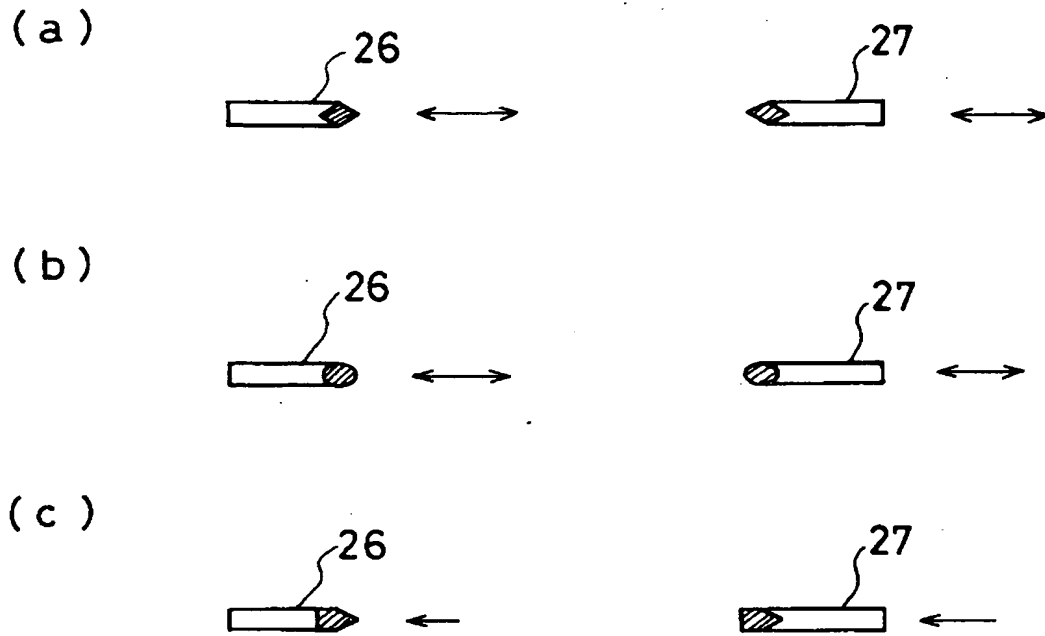
【図 1 2】



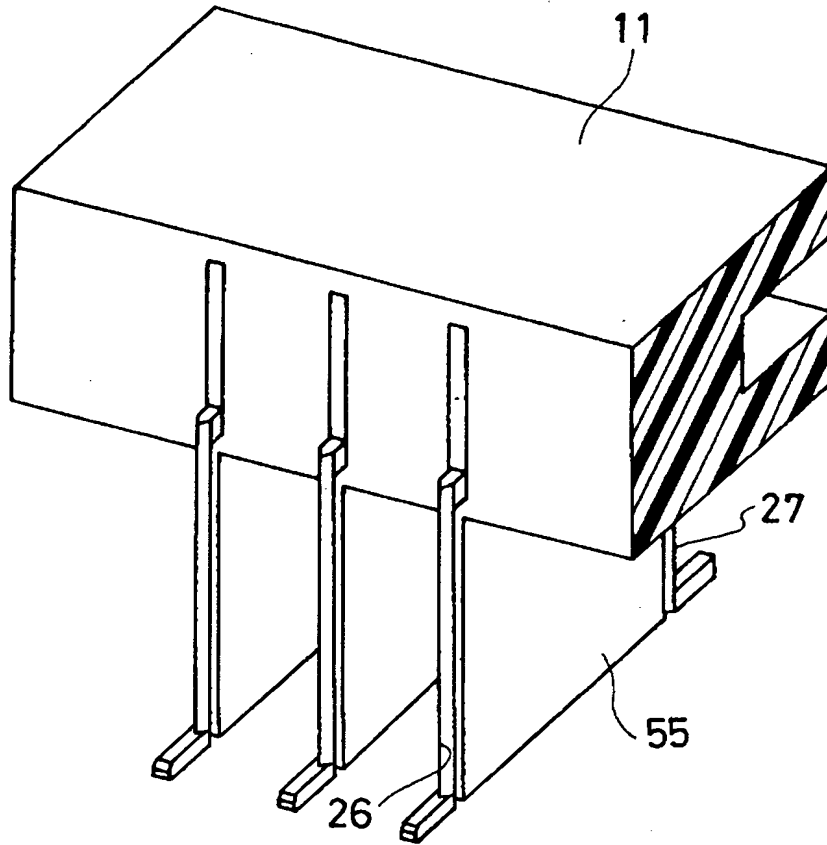
【図 1 3】



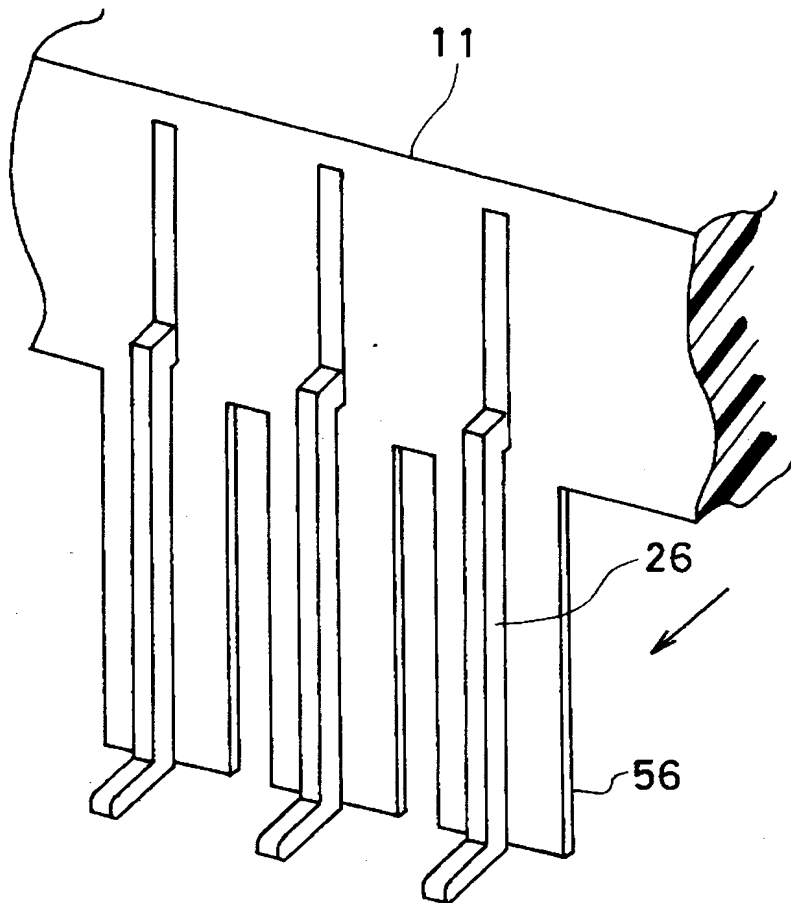
【図 1 4】



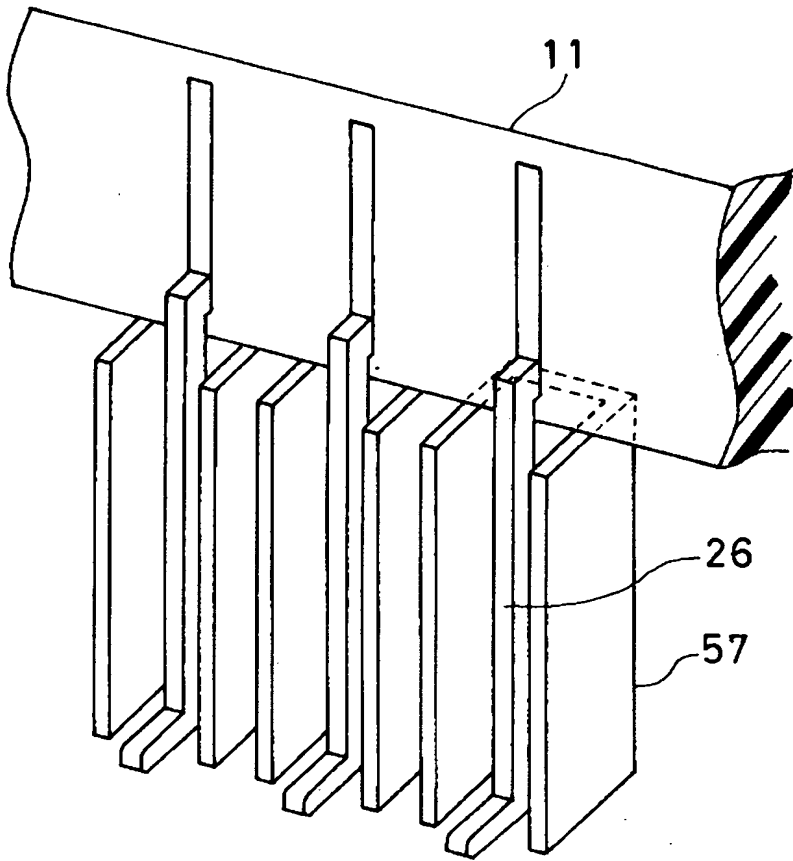
【図 1 5】



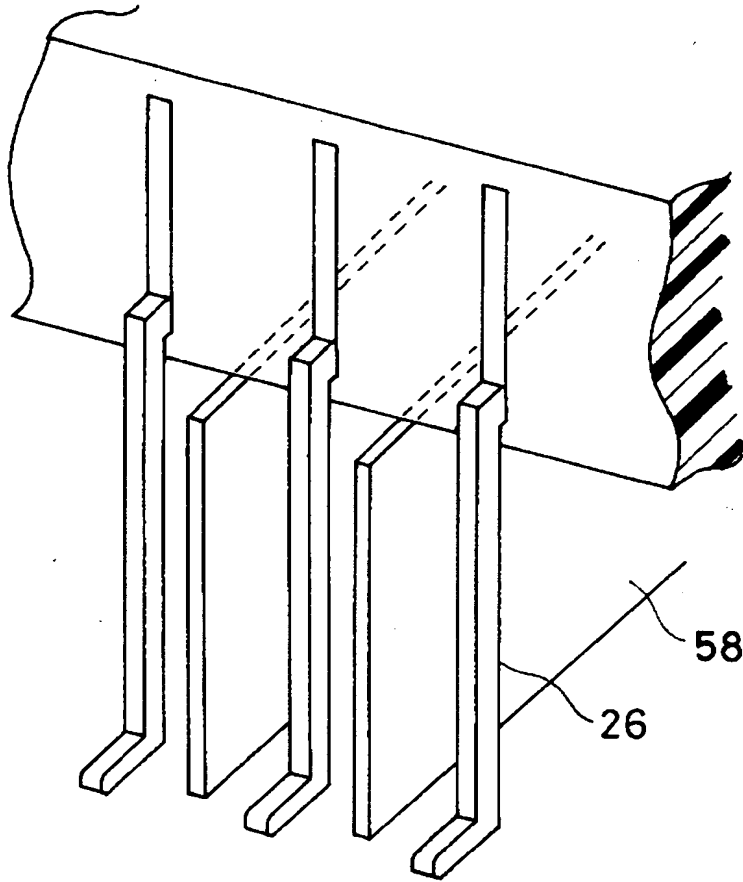
【図 16】



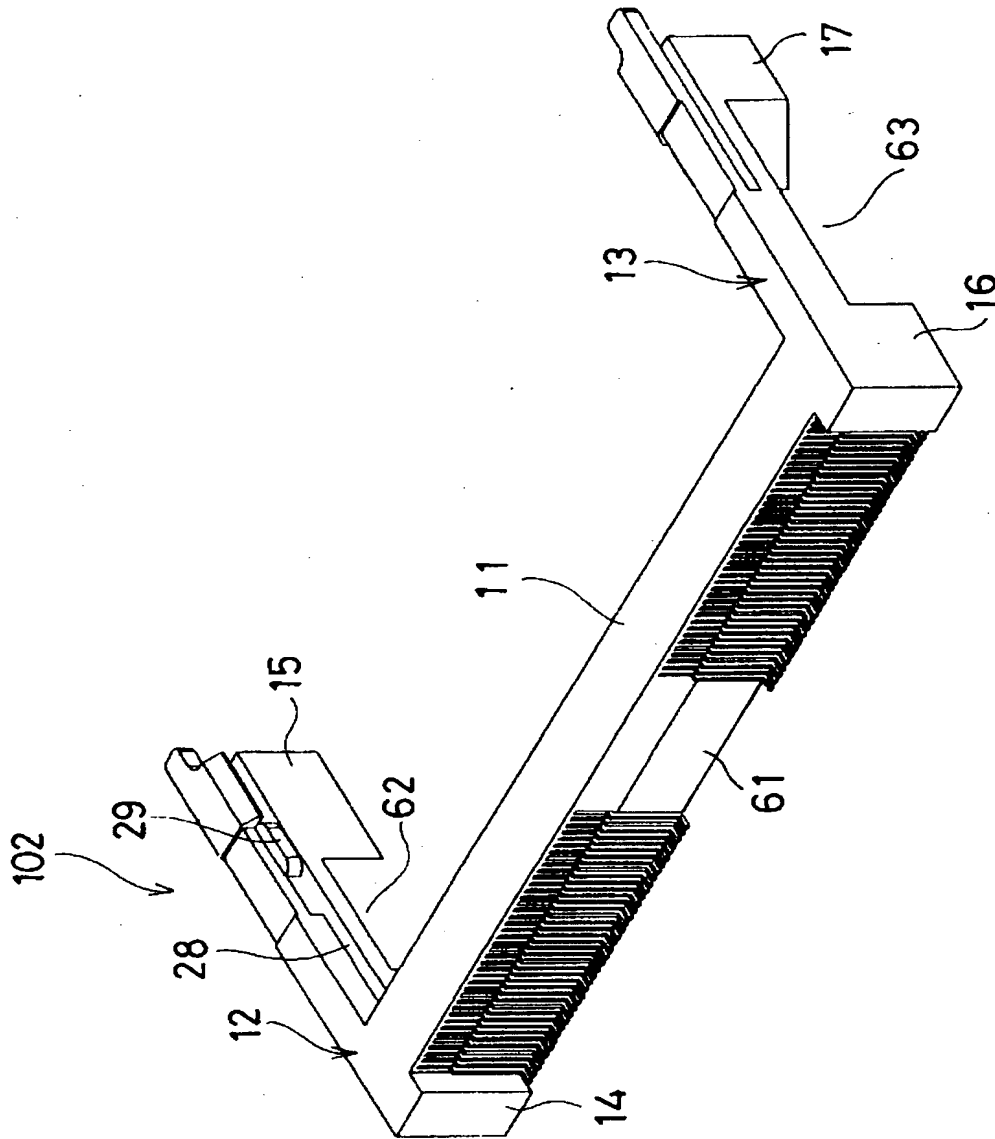
【図 1 7】



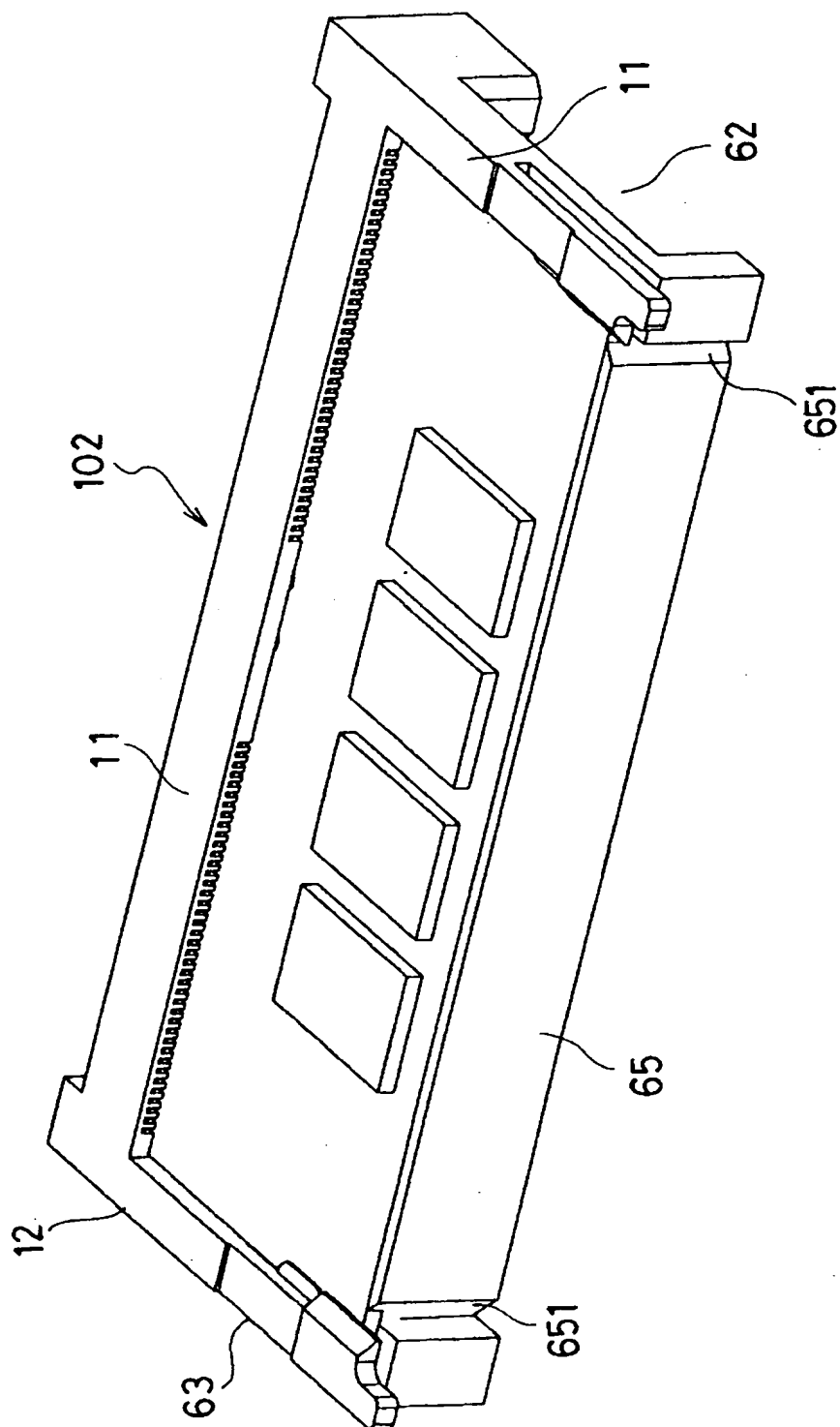
【図 1 8】



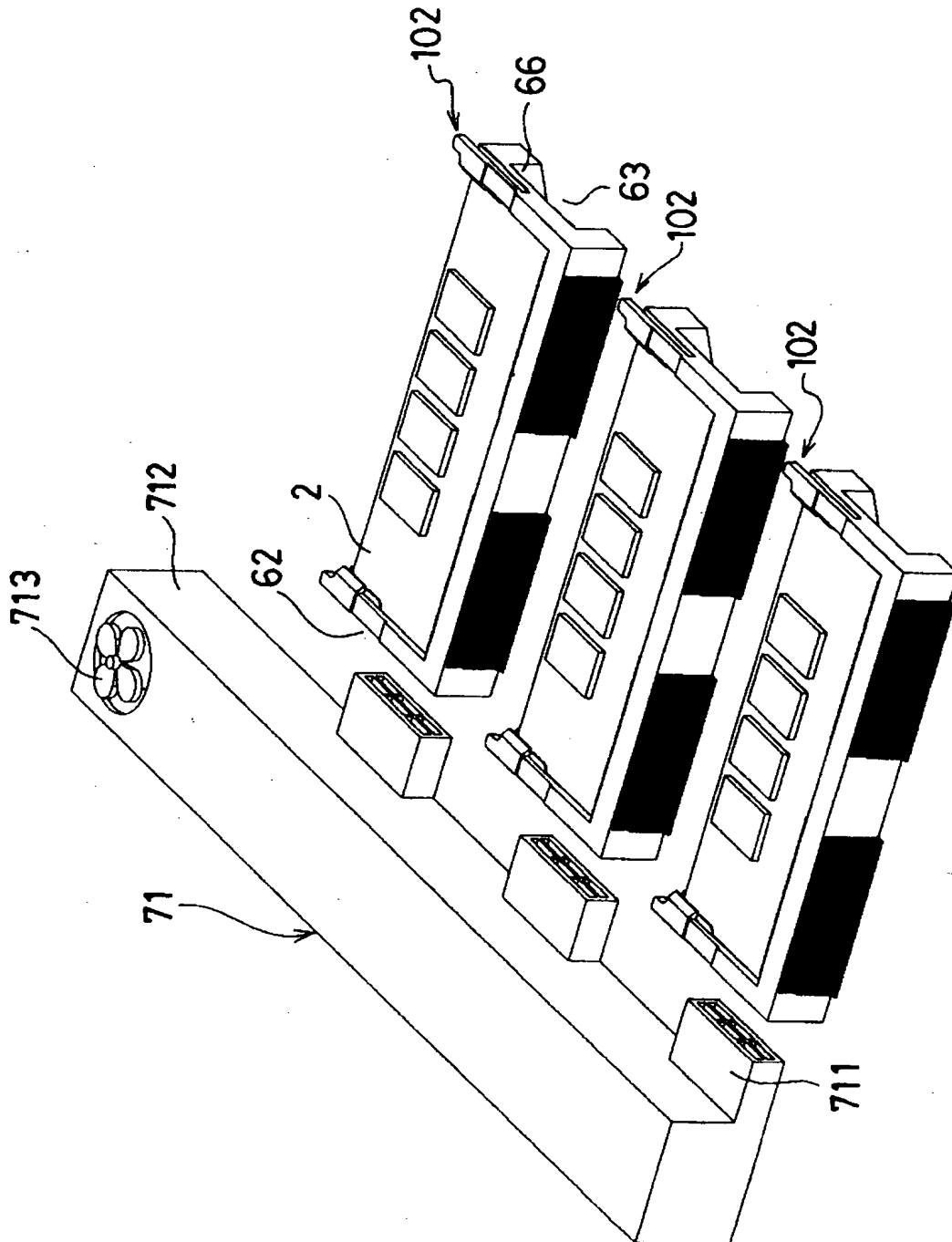
【図 1 9】



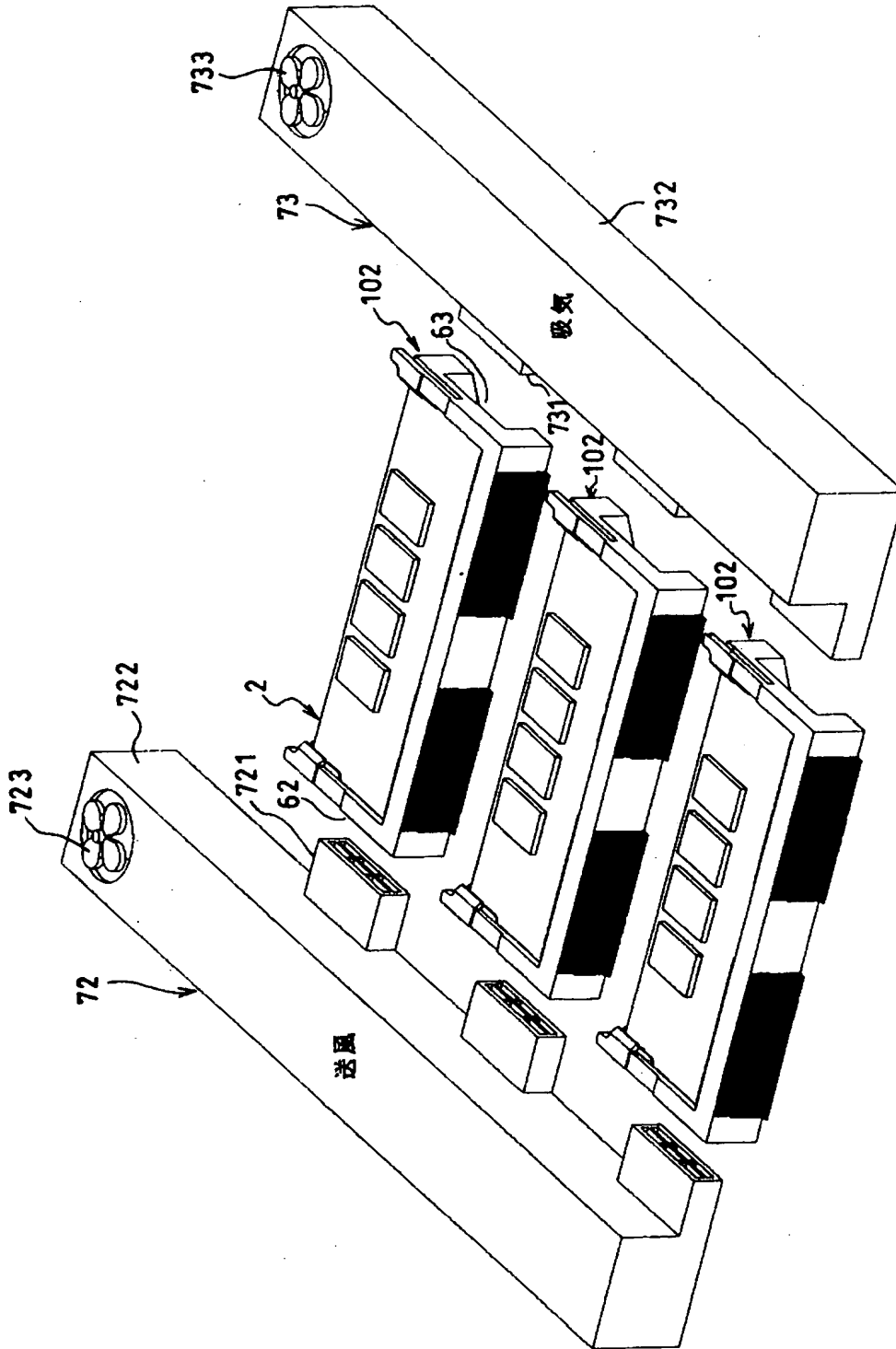
【図 20】



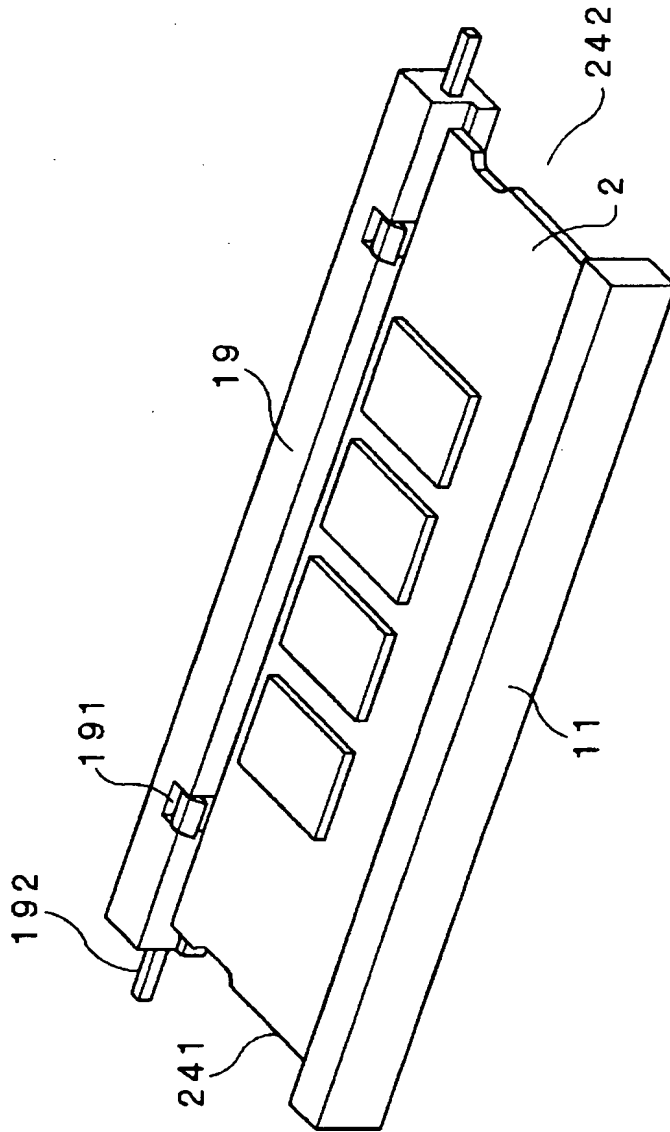
【図 21】



【図 2 2】



【図 2 3】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 コネクタに装着された電子モジュールの冷却を効率的に行うことができるコネクタ及びコネクタに装着された電子モジュールの冷却方法を提供する。

【解決手段】 電子モジュール 2 の先端に設けられた導電パッドに接続されるコンタクト 2 6, 2 7 が取り付けられた本体部 1 1 と、この本体部 1 1 の両側から突設され、電子モジュール 2 の両端側を保持する一对の腕部 1 2, 1 3 とを有するハウジング手段 1 0 と、本体部 1 1 に設けられた第 1 通気手段 2 1 と、一对の腕部 1 2, 1 3 の各々設けられた一对の通気手段 2 2, 2 3 を備える構成にする。電子モジュール 2 の他端側からの風は、第 1 通気手段 2 1 及び第 2 通気手段 2 2, 2 3 へと通り抜ける。この通気手段 2 1, 2 2, 2 3 に対して別途の送風手段又は吸気手段のいずれか一方を設置する冷却方法にすると、電子モジュール 2 が効率的に冷却される。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [390033318]

1. 変更年月日 1990年11月30日

[変更理由] 新規登録

住 所 大阪府大阪市中央区南船場2丁目4番8号

氏 名 日本圧着端子製造株式会社